

2023（令和5）年度事業報告書

—2023年4月1日～2024年3月31日—



学校法人 聖隷学園

目次

1	法人の概要	…	1 頁
	(1) 基本情報	…	1 頁
	(2) 建学の精神	…	1 頁
	(3) 学校法人の沿革	…	2 頁
	(4) 設置する学校・学部・学科等	…	3 頁
	(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童・園児数の状況	…	4 頁
	(6) 収容定員充足率	…	5 頁
	(7) 役員の概要	…	6 頁
	(8) 評議員の概要	…	8 頁
	(9) 教職員の概要	…	9 頁
2	事業の概要	…	10 頁
	(1) 主な教育・研究の概要	…	11 頁
	(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等） 及び事業計画の進捗・達成状況	…	31 頁
	(3) 施設等の状況	…	74 頁
3	財務の概要	…	75 頁
	(1) 決算の概要	…	75 頁
	(2) その他	…	81 頁
	(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、 今後の方針・対応方策	…	86 頁

1 法人の概要

(1) 基本情報

学校法人 聖隷学園
静岡県浜松市中央区三方原町3453
電話(代表) 053-436-5311
FAX 053-436-5355
H P <https://www.seirei.ac.jp/gakuen>

(2) 建学の精神

◆ 基本理念 「生命の尊厳を守り、自分のように隣人を愛する」

聖隷学園は「生命の尊厳を守り、自分のように隣人を愛する」というイエス・キリストの愛を基本理念としています。

イエス・キリストが自ら弟子の足を洗い手本を示されたように、行って同じようにすること、人と共にあり、共に生きることを人生の目的と喜びとすること、病人や障害を持つ人、お年寄りの不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーが危険をおかし、命がけでイエス・キリストを背負ってライン河を渡ったように、これらの人々を大事にケアする人材が本学園から育つことを願っています。聖隷学園が教育環境の充実を図っていく中で願うことは、聖隷学園が地域の人々にとって役に立つ学園であってほしいということです。地域社会における医療・保健・福祉の質の向上に貢献する人材、さらには、アメリカ・ヨーロッパや開発途上国で国際的に活躍する人材が巣立っていくことを期待しています。

◆ 聖隷とは

新約聖書のヨハネによる福音書第13章に、最後の晩餐のとき、キリストは「食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。」とあります。当時、人の足を洗うことは奴隷の仕事でしたが、キリストは弟子たちに行動を以って最後の教を示しました。「聖隷」の名はこの箇所由来しています。1926年(大正15年)4月、長谷川保らクリスチャンの若者たちは、奴隷の形をとって弟子たちの足を洗われるキリストの姿をクリスチャンの理想の生き方と考え、自分たちもキリストに倣い、「聖なる神の奴隷」となって世の人々に仕える生き方をしようと社会福祉事業を目的として聖隷社を創立。ここから「聖隷」の歴史が始まりました。

◆ クリストファーとは

「クリストファーChristopher」は、「キリストを運ぶもの・担うもの」という意味で、3世紀半ば頃の半伝説的殉教者の名前です。クリストファー伝説は、6世紀以後主にライン川流域に広がり、今なお欧州各地において多くの関心と尊敬を集め語り継がれています。伝説によれば、川の渡し守が、嵐の夜、小さい男の子が向こう岸に渡りたいというので、肩車をして渡すと川中で次第に重くなり、やっとの思いで向こう岸に着いたということです。岸に着いてみると、それはキリストであったといわれます。「重くなった」ということに2つの意味があるといわれています。一つは、この世の人々の苦しみ、悲しさの総量を表します。二つには、夜の早瀬や深みを渡るとき、自分より重いものを荷わなければ、自分自身も流れにのみこまれてしまう、ということです。以後キリスト教の精神を担うことの高貴さを表す名称となり、ヨーロッパ諸国に広まりました。

聖隷の創立者・長谷川保は、病人や障害者、お年寄りの不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーがキリストを背負ったように、これらの人々を大事にケアする人が育ってほしいとの願いから「聖隷クリストファー」と命名しました。

◆ シンボルマークの由来



聖隷のシンボルマークは故アルバート・アットウェル（アメリカ人、1978～1981年聖隷学園に奉職）により1980年に考案されました。外側の二重円は、最後の晩餐で主イエス・キリストが弟子たちの足を洗った「たらい」を表現。内側の3つの円は、聖隷グループが使命とする医療（赤）、福祉（緑）、教育（青）を象徴しています。中央の十字架はキリスト教を示し、聖隷のすべての事業がキリスト教会の中から始まったことを示しています。

(3) 学校法人の沿革

1930年	ベテルホームに結核患者収容開始
1936年	浜松市三方原町の県有地7ヘクタール（21,000坪）払下げになる
1939年	迫害が激しくおこり経営困難極まる 12月天皇陛下より特別御下賜金を受ける
1949年	各種学校遠州キリスト学園開設
1952年	聖隷准看護婦養成所開設
1966年	学校法人聖隷学園設立 聖隷学園高等学校設置
1969年	聖隷学園浜松衛生短期大学設置
1980年	聖隷学園浜松衛生短期大学専攻科助産学特別専攻開設
1988年	聖隷介護福祉専門学校設置
1992年	聖隷クリストファー看護大学看護学部設置
1998年	聖隷クリストファー看護大学大学院看護学研究科（修士課程）設置
2001年	聖隷学園高等学校を「聖隷クリストファー高等学校」に名称変更
2002年	大学に社会福祉学部を増設し、「聖隷クリストファー大学」に名称変更 短期大学を「聖隷クリストファー大学看護短期大学部」とする
2003年	聖隷クリストファー高等学校移転改築
2004年	大学にリハビリテーション学部、大学院に社会福祉学研究科（修士課程）を設置 看護短期大学部看護学科を募集停止し、看護学部を定員増
2006年	大学院にリハビリテーション科学研究科（修士課程）を設置 高等学校に英数科を設置
2007年	聖隷クリストファー大学看護短期大学部専攻科助産学特別専攻を廃止し、 大学に助産学専攻科を設置
2008年	大学院に保健科学研究科（博士後期課程）を設置 大学社会福祉学部にごども教育福祉学科を設置
2009年	聖隷クリストファー中学校設置
2010年	大学看護学部養護教諭課程開設

2011 年	聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園開設 大学社会福祉学部を社会福祉学科、臨床介護福祉学科及びこども教育福祉学科に改編 大学リハビリテーション学部を理学療法学科、作業療法学科及び言語聴覚学科に改編 大学院を看護学研究科、社会福祉学研究科、リハビリテーション科学研究科の 各博士前期課程・博士後期課程に改編
2013 年	大学社会福祉学部臨床介護福祉学科を、「介護福祉学科」に名称変更 大学院保健科学研究科廃止
2016 年	聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校開設
2019 年	大学社会福祉学部こども教育福祉学科に小学校教諭課程開設
2020 年	聖隷クリストファー小学校開設
2022 年	聖隷クリストファー中学校「中高一貫コース」「グローバルスクールコース」制導入
2023 年	国際教育学部こども教育学科開設 社会福祉学部介護福祉学科廃止

(4) 設置する学校・学部・学科等（2023年5月1日現在）

設置する学校	開設年	学部等	学科・専攻等	摘要
聖隷クリストファー大学	1992 年	看護学部	看護学科	
	2007 年	助産学専攻科		
	2002 年	社会福祉学部	社会福祉学科	
	2008 年		こども教育福祉学科	
	2004 年	リハビリテーション学部	理学療法学科	2011 年度より 3 学科に改編
			作業療法学科	
			言語聴覚学科	
	2023 年	国際教育学部	こども教育学科	
	1998 年	大学院看護学研究科 博士前期課程（修士課程）		
	2011 年	大学院看護学研究科 博士後期課程		
	2004 年	大学院社会福祉学研究科 博士前期課程（修士課程）		
	2011 年	大学院社会福祉学研究科 博士後期課程		
	2006 年	大学院リハビリテーション科学研究科 博士前期課程（修士課程）		
2011 年	大学院リハビリテーション科学研究科 博士後期課程			
聖隷クリストファー大学 介護福祉専門学校	2016 年	介護福祉学科		

設置する学校	開設年	学部等	学科・専攻等	摘 要
聖隷クリスティー 高等学校	1966年	普通科		1974年衛生看護科から移行
	2006年	英数科		
聖隷クリスティー 中学校	2009年	中高一貫コース		
	2022年	グローバルスクールコース		
聖隷クリスティー 小学校	2020年			
聖隷クリスティー大学 附属 クリスティーこども園	2011年			

(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童・園児数の状況 (2023年5月1日現在)

◆聖隷クリスティー大学・大学院

(単位：人)

	入学定員	入学者数	収容定員	在 籍 者 数					合計
				1年	2年	3年	4年		
大 学 院	看護学研究科	15	10	35	10	12	16	-	38
	博士前期課程	10	7	20	7	11	-	-	18
	博士後期課程	5	3	15	3	1	16	-	20
	社会福祉学研究科	13	3	29	3	3	9	-	15
	博士前期課程	10	2	20	2	3	-	-	5
	博士後期課程	3	1	9	1	0	9	-	10
	リハビリテーション科学研究科	20	10	45	10	15	9	-	34
	博士前期課程	15	8	30	8	13	-	-	21
	博士後期課程	5	2	15	2	2	9	-	13
大学院合計	48	23	109	23	30	34	-	87	
大 学	看護学部	150	158	600	158	159	153	158	628
	看護学科	150	158	600	158	159	153	158	628
	助産学専攻科	15	17	15	17	-	-	-	17
	社会福祉学部	70	52	400	52	83	79	102	316
	社会福祉学科 (※)	60+10	52	280	52	49	49	58	208
	こども教育福祉学科	-	-	120	-	34	30	44	108
	リハビリテーション学部	95	89	380	89	105	107	111	412
	理学療法学科	40	49	160	49	42	51	51	193
	作業療法学科	30	23	120	23	38	27	32	120
	言語聴覚学科	25	17	100	17	25	29	28	99
	国際教育学部	50	52	50	52	-	-	-	52
	こども教育学科	50	52	50	52	-	-	-	52
大学合計	385	368	1,445	368	347	339	371	1,425	
総合計	433	391	1,554	391	377	373	371	1,512	

※入学定員の+10は編入学生(2022年度は+15)、2~4年次の入学定員は65

◆聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

(単位：人)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数		
				1年	2年	合計
介護福祉学科	40	23	80	23	21	44
総合計	40	23	80	23	21	44

◆聖隷クリストファー高等学校

(単位：人)

	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数			
				1年	2年	3年	合計
英数科	94	66	282	66	60	53	179
普通科	200	267	600	267	296	317	880
総合計	294	333	882	333	356	370	1,059

◆聖隷クリストファー中学校

(単位：人)

	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数			
				1年	2年	3年	合計
中高一貫コース	70	40	210	40	38	44	122
グローバルスクールコース		13		13	12	—	25
総合計	70	53	210	53	50	44	147

◆聖隷クリストファー小学校

(単位：人)

	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
総合計	60	41	300	41	46	51	47	26	24	235

◆聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

(単位：人)

	総定員	在籍者数							合計
		0歳	1歳	2歳	満3歳	3歳	4歳	5歳	
定員	225	15	15	15		60	60	60	225
1号認定	135				2	48	44	38	132
2.3号認定	90	7	14	15		14	14	17	81
総合計		7	14	15	2	62	58	55	213

(6) 収容定員充足率（毎年度5月1日現在）

学校名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
聖隷クリストファー大学	97.9%	99.2%	99.0%	97.9%	97.3%
聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校	58.8%	53.8%	57.5%	60.0%	55.0%
聖隷クリストファー高等学校	89.1%	96.7%	110.9%	119.7%	120.1%
聖隷クリストファー中学校	69.0%	57.6%	57.1%	56.2%	70.0%
聖隷クリストファー小学校 ※2020年度開校	—	76.7%	74.6%	80.0%	78.3%
聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園	99.1%	100.8%	95.6%	97.3%	94.7%

(7) 役員概要

(8) 2024年3月31日現在
 (9) 定員数 理事13名、監事2名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	長谷川 了	常 勤	1980年3月29日理事就任 1980年4月専務理事就任 1989年4月理事長就任
専務理事	小柳 守弘	常 勤	2006年5月25日理事就任 2006年11月法人事務局長就任 2012年11月専務理事就任（法人事務局長兼任）
理 事	大城 昌平	常 勤	2017年4月聖隷クリスティーア大学学長就任 2013年5月23日理事就任
理 事	上村 敏正	常 勤	2020年4月聖隷クリスティーア中・高等学校校長就任 2020年4月1日理事就任
理 事	永井 英司	常 勤	2013年4月聖隷学園宗教主任就任 2016年11月24日理事就任
理 事	藤本 栄子	常 勤	2016年4月聖隷クリスティーア大学看護学部長就任 2016年5月26日理事就任
理 事	太田 雅子	常 勤	2022年4月聖隷クリスティーア小学校校長就任 2012年5月24日理事就任
理 事	新宮 尚人	常 勤	2017年4月聖隷クリスティーア大学リハビリテーション学部長就任 2022年5月26日理事就任
理 事	田島 忠和	非常勤	2021年4月1日理事就任 （東京海上日動火災保険株式会社 浜松支店長）
理 事	青木 善治	非常勤	2021年4月1日理事就任 （聖隷福祉事業団理事長）
理 事	山本 貴道	非常勤	2023年9月28日理事就任 （聖隷三方原病院院長）
理 事	岡 俊明	非常勤	2018年11月28日理事就任 （聖隷浜松病院院長）
理 事	砂原 和仁	非常勤	2020年5月28日理事就任 （東京海上ホールディングス株式会社 人事部ウェルネス支援グループ シニアマスター）
監 事	平井 章	非常勤	2011年4月1日監事就任 （前 十字の園理事長）
監 事	三輪 久夫	非常勤	2021年12月1日監事就任 （浜松磐田信用金庫 専務理事）

(10)

(11)

(12) 前会計年度の決算承認に係る理事会開催日後の退任役員

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理 事	荻野 和功	非常勤	2023年6月理事退任

(13)

(14) 2023年3月31日以降の異動状況

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
【退任】			
理 事	荻野 和功	非常勤	2023年6月理事 退任
【就任】			
理 事	山本 貴道	非常勤	2023年9月理事 就任

役員賠償責任保険契約の状況(2024年3月31日現在)

対象役員	契約内容の概要
理事・監事	契約者(団体)：日本私立大学協会 加入期間：1年(2023年4月1日 午後4時～2024年4月1日 午後4時) 保険期間中総支払限度額：3億円 免責金額：0円

責任限定契約の状況(2024年3月31日現在)

対象役員	契約内容の概要
田島 忠和	責任限度額：10万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第14条に基づき定めた額)
青木 善治	責任限度額：24万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第14条に基づき定めた額)
山本 貴道	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)
岡 俊明	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)
砂原 和仁	責任限度額：10万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第14条に基づき定めた額)
平井 章	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)
三輪 久夫	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)

(8) 評議員の概要

2024年3月31日現在
定員数 27名

氏名	就任年月日	主な現職等
長谷川 了	1979年 7月 8日	学校法人聖隷学園 理事長
小柳 守弘	2003年 4月 1日	学校法人聖隷学園 専務理事・法人事務局長
大城 昌平	2013年 4月 1日	聖隷クリストファー大学 学長
上村 敏正	2017年 4月 1日	聖隷クリストファー中・高等学校 校長
藤本 栄子	2016年 5月 26日	聖隷クリストファー大学看護学部 学部長
太田 雅子	2012年 5月 24日	聖隷クリストファー小学校 校長
新宮 尚人	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部 学部長
田島 忠和	2021年 4月 1日	東京海上日動火災保険株式会社 浜松支店長
大野 和男	2017年 4月 1日	聖隷クリストファー中・高等学校 宗教部長
野田 由佳里	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 校長
武田 真理子	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園 園長
佐藤 順子	2023年 4月 1日	聖隷クリストファー大学社会福祉学部 学部長
柴本 勇	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科長 (大学院三研究科長代表)
敷浪 いづみ	2016年 5月 26日	聖隷クリストファー中・高等学校 教頭
中村 憲司	2010年 5月 27日	聖隷クリストファー大学 総務部長
鈴木 聡	2012年 11月 28日	聖隷クリストファー小学校 総務部長
紅谷 純	2018年 5月 24日	聖隷クリストファー大学 同窓会会長
木村 忠雄	2007年 4月 1日	聖隷クリストファー大学 同窓会副会長
田中 恵梨子	2023年 9月 28日	聖隷クリストファー高等学校 同窓会長
古橋 洋子	2023年 4月 1日	聖隷クリストファー大学・介護福祉専門学校 後援会長
宮崎 康弘	2023年 4月 1日	聖隷クリストファー中・高等学校 PTA会長
長澤 道子	2003年 4月 1日	(社)牧ノ原やまばと学園 理事長
藤島 一郎	2005年 4月 1日	浜松市リハビリテーション病院 特別顧問
稲松 義人	1997年 4月 1日	(社)小羊学園 理事長
加藤 成久	2015年 4月 1日	(社)神戸聖隷福祉事業団 神戸聖生園 施設長
岡村 奈緒美	2021年 12月 1日	(社)聖隷福祉事業団聖隷浜松病院 総看護部長
堀口 路加	1990年 4月 1日	学校法人堀口学園 理事長、(社)愛の園福祉会 理事長

(9) 教職員の概要 (2023年5月1日現在)

聖隷クリストファー大学・大学院 教員数

(単位：人)

	専任					兼任	合計
	教授	准教授	講師 助教	助手	計		
看護学部	18	14	18	2	52	104	156
社会福祉学部	11	7	4	0	22	64	86
リハビリテーション学部	14	7	8	0	29	73	102
国際教育学部	2	1	0	0	3	2	5
助産学専攻科	1	1	1	0	3	35	38
合計	46	30	31	2	109	278	387
平均年齢	51.8歳						

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 教員数

(単位：人)

	専任	兼担	兼任	合計
介護福祉学科	3	16	4	23
平均年齢	44.7歳			

聖隷クリストファー高等学校 教員数

(単位：人)

	専任	兼任	合計
普通科・英数科	46	32	78
平均年齢	45.6歳		

聖隷クリストファー中学校 教員数

(単位：人)

	専任	兼任	合計
中高一貫コース・グローバルスクールコース	18	7	25
平均年齢	44.2歳		

聖隷クリストファー小学校 教員数

(単位：人)

	専任	合計
小学校	22	22
平均年齢	46.1歳	

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園 教員数

(単位：人)

	専任	準職	合計
こども園	18	24	42
平均年齢	39.7歳		

※準職員は7.75hで1名換算

職員数

(単位：人)

	専任	準職	派遣	合計
法人	13	5	4	22
聖隷クリストファー大学 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校	39	5	3	47
聖隷クリストファー中・高等学校	5	3	0	8
聖隷クリストファー小学校	4	7	1	12
クリストファーこども園	4	15	0	19
合 計	65	35	9	108
平均年齢	44.3 歳			

2 事業の概要

法人全体

①メディカルスクール（医学系専門職大学院）設置構想

国際基準に合わせた医学教育（2023年以降）の改革に対応するため、メディカルスクール（医学系専門職大学院）設置構想を掲げています。

過去6年制医学部から4年制メディカルスクール（学部卒業）に移行したハーバード大学医学部、デューク大学医学部シンガポール校、オーストラリアディーキン大学・モナシユ大学、マレーシア、韓国（ソウル近郊）、フィリピンにおける医師養成状況事例を資料にまとめ検討材料の基礎としています。

②グローバルスクール設置構想

2022年4月グローバルスクール（中学校）開設にあたり国際バカロレア教育をふまえたカリキュラム、教員配置を計画し、2026年4月聖隷クリストファーグローバルスクール中高等部（仮称）定員60名という新たな学校設置に向けた準備を進めています。

③中長期人事政策に向けた取組み

今後将来的に納付金や補助金の増額が見込めない一方、人件費比率は毎年1%近く増加していく見通しがあり、財政的に非常に厳しい状況になっていきます。大学、中高の教員配置計画、教員年齢問題対応を含めた特任教員配置計画ならびに非常勤講師配置計画について、人件費比率を大学では63%、中高では60%、こども園では70%以下を前提とした人事政策を実施しています。そのひとつとして、大学、専門学校、中高等学校、小学校、こども園、事務職員について人事評価制度を導入し、客観的説得力のある評価と処遇反映によるやりがいのある制度の構築に向けて、評価基準の整備、処遇反映方法等の調整を行なっています。

④地域における交流と信頼関係づくり

三方原地区における聖隷グループの各施設が共通する課題について話し合い、協調を図っていくことを趣旨として三方原サミットを開催しました。各施設、団体より当年度事業計画のトピックスを報告いただき、互いの事業への理解を深める機会としました。また、災害時対応として、地震災害を想定し三方原サミット災害対策本部、三方原サミット各施設合同でトランシーバーによる情報収集訓練を行いました。今後も定期的に訓練を実施していきます。

聖隷クリストファー大学

聖隷クリストファー大学は「キリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶すると共に、広い知識と深い専門の学芸を教授・研究し、保健医療福祉分野の看護、リハビリテーション、福祉及び教育・保育の専門職業人を育成して、人類の健康と福祉と教育・保育に寄与することを目的とする。」と大学学則の中に謳い、地域に貢献し、国際社会においても活躍できる専門職者を育成しています。

大学の中長期事業計画に沿って2023年度は、1)建学の精神を基盤とした教育及び人材育成、2)学生募集・広報力の強化と入試制度の見直しによる入学定員の充足、3)内部質保証システムを有効に機能させた教育の質の向上、4)国際教育学部の定員増・学科増及び教育・心理学系大学院の開設に向けた将来構想の検討、5)グローバル化の発展に向けた教育・研究の推進、6)教育環境を充実させるための点検・整備計画の立案を重点課題に掲げて事業計画を立案を重点課題として取り組んできました。

2024年度は2023年度の事業計画の評価をおこない、1)入学者目標数の達成、2)内部質保証システムの見直し、3)入学者の学修力等の調査・分析による教育改革の推進、4)大学リソースの地域還元と社会アピール、5)大学院の高度化・発展に向けた教育課程・コース開設の検討、6)教育環境の改善向上に向けた点検整備、7)国際教育学部の将来構想の策定を全学的な重点課題に掲げて事業計画を立案し取り組みます。

(1) 主な教育・研究の概要

◆「卒業認定・学位授与の方針 (Diploma Policy) 」 (以下「DP」)

看護学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. 看護の基盤及び看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
3. 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
4. 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
6. 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域及び国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。なお、養護教諭の教職課程のディプロマ・ポリシーについては、上記に加えて下記の通りとします。
 - (1) 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
 - (2) 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
 - (3) 上記(1)と(2)を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。

社会福祉学部のDP

卒業においては、以下に掲げることによって到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
3. 様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
5. 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
6. 社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
7. 社会福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。

リハビリテーション学部のDP

卒業においては、以下に掲げることによって到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
3. リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探究・設定し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
6. リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域及び国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。

国際教育学部のDP

卒業においては、以下に掲げることによって到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動する。
2. 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。

3. 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
6. 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。

看護学研究科博士前期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映することができる。
2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野及び関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。
3. 看護学分野及び関連諸科学の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。
4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、リハビリテーション科学の研究・実践及び自らの活動に反映することができる。
2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる。
3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる。
4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる。

6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる。
7. 学際かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

社会福祉学研究科博士前期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、倫理観を身に付け、実践・研究・教育に反映することができる。
2. 社会福祉分野における専門知識を習得し、福祉の人間学についての探究心を深め、論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
3. 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、専門応用力を身につけ、専門性の高い活動を実践することができる。
4. 先行研究をレビューした上で、自らの研究課題を発見し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通して、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

看護学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映し自らの行動に反映することができる。
2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野及び関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。
3. 看護学分野及び関連諸科学の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。
4. 看護学分野の専攻領域の研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることによって到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、リハビリテーション科学の研究・実践及び自らの行動に反映することができる。
2. リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる。
3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる。
4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら発見し、先行研究の調査と詳読を経て、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿って実施し、自立した研究者・専門職者として論文としてまとめ発表することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧及び学問の発展に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルリーダーとして国内外の専門家や学生と交流ができる。

社会福祉学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることによって到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、高い倫理観を身に付け、実践・研究・教育に反映することができる。
2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる。
4. 自立した研究者として、独創的な研究テーマを設定し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる。
5. 自らの研究を発展させ、研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と学術的な研究交流ができる。

◆「教育課程編成・実施の方針（Curriculum Policy）」（以下「CP」）

看護学部のCP

看護師を志すものとして身に付けるべき態度・知識・技能を習得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と、人間理解を深めるための多様な教養科目を配置した教養基礎領域 2) 人間や環境についての基礎知識を幅広い視野から体系的に修得する専門基礎領域 3) 対象者の成長・発達段階及び健康段階、看護の場の特性を踏まえて、対象の理解と看護に関する基本的な知識と理論、技能を修得するための看護専門領域—の3領域から行うものとします。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、多様な文化や価値観・生活背景を理解する人間教育に関わる大学教育導入科目と教養基礎科目を配置する。
2. 看護の対象者の課題を科学的・論理的、総合的に理解し、個別性に応じて支援するために、人が生きる環境や身体・心理面の健康、成長・発達を理解するための専門基礎、看護専門科目を配置する。
3. 様々な立場や意見、生活背景をもつ他者を理解し、自らの考えや意見を、対象に応じて正確・適切に、伝達・説明できるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目及び専門基礎科目を配置する。
4. さまざまな年代の多様な状況にある人々に対して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識・理論、情報、技能等を総合的に活用し、根拠に基づく基礎的な看護技術を駆使し、看護を科学的に実践できる能力を養うために看護専門科目を配置する。
5. 課題解決に向けて、主体的・かつ仲間と協働して看護専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で検討するために、看護専門科目を置く。
6. 看護者の役割と責任を自覚し、保健・医療・福祉の関係職種と協働する能力を養うために、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際的視野で物事をとらえる能力を養うために、国内外の医療、保健、看護を学習する科目や語学、海外研修や国際看護実習を経験する科目を配置する。
8. 生涯に亘り看護学・看護実践を追求しようとする意欲と信念・価値観を養うために、これまでの看護学の学修を統合し、専門職としての自覚を高め、責務を理解し自己の看護観や研究的視点を深める統合科目を配置する。

養護教諭課程では、上記の看護学部のカリキュラム編成方針に加えて、養護教諭を志す者として身につけるべき態度・知識・技能を修得するために、以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

- (1) 教職の意義や職務、教育に関する基礎的知識、児童生徒への理解・対応に必要な発達等の知識を修得するために、教職に関する科目を配置する。
- (2) 児童生徒の心身の健康課題に対応できる知識・技能を修得するために、養護に関する科目を配置する。
- (3) 学校現場において児童生徒や教職員と関わり、学校保健活動を行う実践力を養うために、教育実践に関する科目を配置する。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT など活用した教材開発、教育方法の改善に取り組みます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 - S (90~100 点) 到達目標を越えたレベルに達している。
 - A (80~89 点) 到達目標をほぼ達成している。
 - B (70~79 点) 到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C (60~69 点) 到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D (59 点以下) 最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

社会福祉学部のCP

社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士を志す者として身につけるべき態度・知識・技術を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と人間理解を深めるための多様な教養基礎科目を配置した教養基礎領域 2) 関連諸学の基礎知識や社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の基礎知識を体系的に修得する専門基礎領域 3) さまざまな対象者の有する課題を科学的、論理的、総合的に理解し支援するために必要な社会福祉・介護福祉の基本的な知識と理論、及び技術を修得するための専門領域—の3領域から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、社会福祉、介護福祉の専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目及び人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、物事を総合的に捉え的確に判断できる教養を養うために大学教育導入科目と教養科目を置く。
2. 対象者の多様性を理解し、適切な社会福祉援助の実践ができるようになるため、関連諸学の基礎知識や社会福祉の各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得するために専門基礎科目を置く。

3. 対象者を全人的に理解し、適切な対人関係を築くことのできるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目及び専門基礎科目を置く。
4. 対象者を理解し、基礎的な社会福祉援助法の実践のため、各専門分野の基礎的な評価や援助技術を修得するために専門科目を置く。
5. 設定された課題や自身の疑問に対し、専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探求する態度と知識、技術を身につけるために専門科目を置く。
6. 社会福祉、介護福祉の専門職者の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技術を修得するために専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際的にも活躍できる国際感覚及び語学力・表現力を養うために語学や海外研修及び国際福祉実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組みます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 - S (90～100 点) 到達目標を越えたレベルに達している。
 - A (80～89 点) 到達目標をほぼ達成している。
 - B (70～79 点) 到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C (60～69 点) 到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D (59 点以下) 最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

リハビリテーション学部のCP

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を志す者として身につけるべき態度・知識・技能を身につけるため、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と、人間理解を深めるための多様な教養科目を配置した教養基礎領域 2) 医学的基礎知識と、理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の専門分野の基礎知識を体系的に修得する専門基礎領域 3) 対象者の疾患と病態、障害特性に応じた理学療法・作業療法・言語聴覚療法の実践に必要な検査・評価と治療・指導・援助に関する基本的な知識と理論、技

能を修得するための専門領域—の 3 領域から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」を理解し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけるため、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目及び人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く（講義）。また大学での学びの基礎を築き、知識の幅を広げ、物事を総合的に捉え、的確に判断できる教養を養うため、大学教育導入科目と教養教育科目を置く。
2. 疾患や病態、心身機能の障害特性を理解し、適切な理学療法・作業療法・言語聴覚療法が実施できるようになるため、医学的基礎知識及び各専門分野の基礎的な知識・理論を体系的に理解し、技能を修得する専門基礎科目を置く。
3. 対象者の価値観や立場を尊重した適切な対人関係を築くため、コミュニケーション力と実践力及び自己分析能力を養うキャリア教育科目及び専門基礎科目を置く。
4. 設定された課題や自身の疑問に対し、自身の専門分野や関連諸学の学識を統合し課題を探究する態度と研究方法論を身につけるため、専門科目、研究基礎科目及び各分野の発展的専門科目を置く。
5. 対象者の疾患と病態、障害特性を適切に理解し、基礎的な理学療法・作業療法・言語聴覚療法の基礎的な検査・評価と治療・指導・援助技能を修得するため、専門科目及び臨床教育科目を置く。
6. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技能を修得するため、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際感覚及び語学力・表現力を養うため語学や海外研修及び実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組めます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 - S（90～100 点）到達目標を越えたレベルに達している。
 - A（80～89 点）到達目標をほぼ達成している。
 - B（70～79 点）到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C（60～69 点）到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D（59 点以下）最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価

を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

国際教育学部のCP

教育・保育の専門職者を志すものとして身につけるべき態度・知識・技能を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と人間理解を深めるための多様な教養基礎科目を配置した教養基礎領域 2) 教育や関連諸学の基礎知識を修得する専門基礎科目 3) 対象者の多様性を理解し、課題を探求し、実践するために必要な教育・保育及び関連諸学の知識と理論、及び技能を修得するための専門科目から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動できるようになるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目と教養科目を置く。
2. 対象者の多様性を理解し、適切な教育・保育の指導・援助の実践ができるようになるため、関連諸学の基礎知識や各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得するための専門基礎科目、専門科目を置く。
3. 大学での学びの基礎を築き、様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけるために、大学教育導入科目と専門科目を置く。
4. 設定された課題や自身の疑問に対し、自分の専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探究する態度と知識、技能を身につけるためにキャリア教育科目と専門科目を置く。
5. 各専門分野の基礎的な評価や指導・援助の技術を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を身につけるために専門科目実習・演習・インターンシップ科目を置く。
6. 教育・保育の専門職者の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技能を修得するために専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際的な視野、国際感覚を培うための語学、国際バカロレア関連科目、海外研修、国際ボランティア及び国際教育実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組めます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。

2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 - S（90～100点）到達目標を越えたレベルに達している。
 - A（80～89点）到達目標をほぼ達成している。
 - B（70～79点）到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C（60～69点）到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D（59点以下）最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

看護学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と関連諸学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 各専門分野の基盤となる主要な概念と理論及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。
4. 高度実践看護コースにおいては、高度看護実践に必要な高い専門知識と高度看護実践能力を修得するための資格認定に必要な科目を置く（基盤科目・専門科目）。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と関連諸学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 各専門分野の基盤となる主要な概念と理論、専門的臨床技能及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。

社会福祉学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と社会福祉学に求められる関連諸科学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 社会福祉原理・援助領域に必要な各専門分野の基盤となる主要な概念と理論及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。

看護学研究科博士後期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 多職種と連携する資質を磨き、実務者として高度な知識と指導力を身につけるための科目を置く（共通科目）。
2. 専門性を深化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 多職種と連携する資質を磨き、倫理観、学識、幅広い知識、人間性及び指導力を身につけるための科目を置く（共通科目）。
2. 専門性を深化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

社会福祉学研究科博士後期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 社会福祉の高度専門職として、多職種連携ができる資質を磨き、高度な知識と指導力を身に付けるための科目を置く（共通科目）。
2. 社会福祉学の自立した研究者として、専門性を進化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

◆「入学者受入れの方針（Admission Policy）」（以下「AP」）

看護学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか

看護学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、人々がその人らしく生活できることを目指した質の高いケアを提供するために、進歩する看護専門分野及び関連諸学の知識と技能を統合し、多職種連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できる看護学分野の指導的人材として労を厭わぬ実践ができる看護専門職者を育成することを目的とします。

○求める学生像

- ・自分と同じように、他の人々を尊ぶことのできる人間性を備えた看護専門職を志す人
- ・科学的思考力を身につけ、深い教養に支えられた看護専門職をめざして学ぶ意欲のある人
- ・他の医療保健福祉分野の専門職を志す仲間と共に連携・協働して課題解決することに関心が高い人
- ・看護専門職として社会に貢献する意欲のある人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、他者による表現を理解出来る読解力と、自己の考え・感情を適切に表す表現力
- ・地理歴史・公民については多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、論理的な思考を可能とするための数学的素養
- ・理科については、看護を科学的に実践する能力の基礎となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、広く国際社会の人達とのコミュニケーションを実現できる能力としての英語理解と英語による表現力

○入学者選抜の基本方針

看護学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。看護学部の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜、社会人選抜を実施しています。本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・理解、思考力・判断力・表現力）を評価します。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ます。
- ・面接では、他者と適切な人間関係を築く能力を評価します。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を評価します。

社会福祉学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか

建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を養い、地域の福祉と生活上の困難を抱える人々の自立を支援する高度な知識・技術と関係多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる実践力を兼ね備えた福祉専門職の育成を目指しています。そのために地域と支援を必要とする人々を深く理解し、対人関係を築く能力を養い、社会福祉、介護福祉、心理の専門知識、技術を修得することを目標としています。

○求める学生像

- ・人間が好きで、豊かな感性をもつ人
- ・人間社会に関心をもち、社会的不公正を問う人
- ・人とかわり、多くのことを吸収し、協働を大切にすること
- ・社会福祉、介護福祉、心理を学び、この分野でリーダーとして活躍したいという強い意志と意欲をもつ人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、論理的思考をするための基礎となる読解力、表現力・地理歴史・公民については、地域社会に働きかける専門職者として、社会福祉に関する法律・制度を理解し、多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、問題解決を可能とするための論理数学的思考力
- ・理科については、専門領域を科学的に実践する能力の基礎となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえる能力の基礎となる語学力

○入学者選抜の基本方針

社会福祉学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜、3年次編入学試験を実施しています。入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を見ています。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見えています。
- ・面接では、他者と適切な人間関係を築く能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を見えています。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を見えています。

リハビリテーション学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか

リハビリテーション学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、高度な知識・技能を修得し、また多職種と連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できるリハビリテーション分野の指導的人材となる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を育成することを教育目的とします。したがって、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として必要な「相手の心を理解し尊重するという基本的態度」と「高度な専門的知識及び実践的な専門技能」の二つの能力を修得し発展・向上させます。

○求める学生像

上記の人材育成を目標としていることから、次のような資質を有する学生を求めています。

- ・建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」を尊重し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として人格を磨くことのできる人
- ・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の使命と役割を理解し、それを担う意志のある人
- ・教養と理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の知識と技能を身につけ成長するため、自ら学ぶ意欲のある人
- ・他の医療保健福祉分野の専門職者と多職種連携・協働して課題解決に努め、リーダーとして成長しようとする人
- ・理学療法学・作業療法学・言語聴覚学分野の発展と、地域社会及び国際社会の課題解決に貢献するため自己研鑽できる人
- ・理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の学問の発展のために国内外で学究活動に携わることを志す人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

人の心身機能・構造及び活動とそれらの障害を理解し、理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の理論と技能を修得する上で、高等学校までに次のような基礎学力を有していることが望まれます。

- ・国語については、物事を的確に理解し、論理的に思考し表現するために必要な国語の文章力と読解力、言語による思考力及び伝達力
- ・地理歴史・公民については、多様な文化や歴史、価値観、生活背景をもつ他者を理解するために必要な基礎知識
- ・数学については、論理的かつ数量的に物事を考え表現するために必要な数学的知識と技能
- ・理科については、自然の現象や人体に関する諸問題を科学的に理解するために必要な自然科学（物理、化学、生物）に関する基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえ、諸外国の人々と交流するために必要な基礎的な英語の理解力とコミュニケーション力

○入学者選抜の基本方針

リハビリテーション学部では、学力の3要素である①「基礎的・基本的な知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「主体性をもって他者と協働して学ぶ態度」を総合的にみる、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜を実施しています。本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、グループワーク、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）をみます。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や課外活動の履歴から、主体性や協調性をみえています。
- ・グループワークでは、他者と適切な人間関係を築く能力を評価します。
- ・面接では、目的意識、意欲、自己表現力、目標や将来のビジョンを確認しています。
- ・小論文では、総合的な読解力、発想力、論理的思考力、表現力をみえています。

国際教育学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか。

建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を養い、人類のウェルビーイングに向けた教育のために、国際的視野を持ち、関連する機関・職種の人々と協働し、その責務を果たすことができる実践力を兼ね備えた教育・保育専門職者の育成を目指しています。そのために世界・地域や対象者を深く理解し、対人関係を築く能力を養い、教育・保育の専門知識、技能を修得することを目標としています。

○求める学生像

- ・人間が好きで、豊かな感性をもつ人
- ・人間社会に関心をもち、持続可能な社会の創造と発展に寄与する熱意のある人
- ・人とかわかり、多くのことを吸収し、協働を大切にする人
- ・よりよい教育・保育の実現を目指して、高い倫理観と使命感をもって主体的に学修に専念する人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、教育・保育の専門職者として論理的思考及びコミュニケーション力を支える読解力、表現力
- ・地理歴史・公民については、教育・保育の専門職者として、多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、教育・保育の専門職者として、問題を系統立てて考え、解決に導くための論理数学的思考力
- ・理科については、教育・保育の専門職者として必要となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえる能力の基礎となる語学力と「世界」に視野を広げる挑戦意欲とコミュニケーション力

○入学者選抜の基本方針

国際教育学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜を実施しています。入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を見ています。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ています。
- ・面接では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を見ています。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を見ています。

看護学研究科博士前期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 看護学領域の実践に必要な基本的倫理、知識、技能を備えより良い実践のため探求する意欲を持っている人
3. 看護学領域の臨床実践や教育実践における課題に気づき、自分の意見を述べることができる人
4. 看護の実践の中で生じた課題を解決するために、他者の意見を聞くことができる人
5. 自律的に活動し、主体性を持って課題解決に向け学修できる人

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を理解する意欲を持っている人
2. リハビリテーション科学領域の実践や研究に必要な基本的倫理、知識、技能を備え、研究心を持っている人
3. リハビリテーション科学領域の臨床実践や教育実践における課題に気づき、口頭及び文書で論理的に表現することができる人
4. それぞれの実践の中で生じた課題の解決に意欲を持っている人
5. 自律的に活動し、主体性を持って多様な人々と協働して学ぼうとする意欲を持っている人

社会福祉学研究科博士前期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 社会福祉専門職の実践に必要な基本的倫理、社会福祉の思想、知識、技能を備え、研究心を持っている人
3. 社会福祉の高度専門職者として、臨床や教育実践における課題に気づき、その意味を判断し、社会的に問題を口頭及び文書で論理的に説明できる人
4. 社会福祉実践の中で生じた課題の解決、科学的な分析、研究に意欲を持っている人
5. 社会福祉実践の現場から学び、自立的に活動し、専門職連携、多職種連携、協働の視点を持っている人

看護学研究科博士後期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 看護学領域の専門職の実践に必要な知識・能力を備え、看護学を探求する意欲を持っている人
3. 看護学領域の臨床実践や教育実践における課題について、研究的視点を持ち自立して研究に取り組む意欲のある人
4. 看護領域の課題解決に向けて、他の専門職や研究者と協働することができる人
5. 学術的かつ国際的に視野を広げることに関心を持ち、看護学の発展に貢献する意欲のある人

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を理解する意欲を持っている人
2. リハビリテーション科学領域の研究に必要な基本的倫理、知識、技能を備え、研究を行った経験を有している人
3. リハビリテーション科学領域の研究課題に気づき、その意味を判断し、口頭及び文書で論理的に表現することができる人
4. それぞれの実践や研究の中で生じた独創的課題の解決に意欲を持っている人
5. 自律的に活動し、主体性を持って多様な人々と協働して学び、将来共に活動する志向を持っている人

社会福祉学研究科博士後期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 社会福祉専門職の実践に必要な基本的倫理、社会福祉の思想、知識、技能を備え、研究を行った経験のある人
3. 社会福祉の高度専門職者として、臨床や教育実践における課題に気づき、その意味を判断し、口頭及び文書で論理的に説明し、社会的に問題の改善ができる人
4. 社会福祉実践の中で生じた課題の解決に意欲と科学的な分析力、研究方法を持っている人
5. 社会福祉実践の現場から学び、自立的に活動し、主体性を持って専門職連携、多職種連携を図り、協働のネットワークを構築する人

聖隷クリストファー中・高等学校

◆本校の目標

- ①建学の精神である「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書の言葉をもとに、真理と愛に立脚し「人のために役立つ」姿勢を持ち、明るい未来を拓き実践する人材の育成を目指す。
- ②「隣人愛を基盤とした聖隷学園一貫グローバル人材推進構想」を実現し、日本と世界に発信し、地域に信頼される学校を目指す。

生徒一人一人が、この学園での学びを通して、自分に与えられている個性や賜物(たまもの)を発見し、人生の意味を考え進路を選び、この学園で培われた価値観を土台として生きる人となるよう願っています。

普遍の価値に軸足を置き、多様に変化する現代社会に責任を持って関われる、躍動する学園であることを目指します。

聖隷クリストファー小学校

◆本校の教育理念

キリスト教精神の隣人愛を基に、日本文化を理解した上で、グローバル社会に貢献できる児童の育成を目指します。

そのために、奉仕活動や学校生活を通して、他人を思いやる心や行動力を養います。また、身の回りの現象を題材にしながら教科横断型の探究学習で、探究力、思考力、コミュニケーション力や表現力を養います。それが基礎となり、母語の日本語を重視した上での英語イマージョン教育を行うことによって、二言語習得を目指し、多様な見方や場に応じた志向・判断ができる人を育てます。

このように、隣人愛に根差し、探究学習と英語イマージョンを融合した聖隷の教育によって、未来に向かって主体的に学んでいく力や自信をもって挑戦していく姿勢が身につくよう、一人ひとりの子どもを大切に導いていきます。

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園（以下クリストファーこども園）は、2011年4月に静岡県西部で初めて開園した「幼保連携型認定こども園」です。園の基本理念である「キリスト教主義を基盤に心身ともに健やかなこどもの成長を育む園」の下、「愛・思いやり・たくましさ・いのち・表現力・自立」を園の目標として、主体性や意欲、他者を思いやる心など豊かな人間性を育てていくとともに、異年齢や多様な人々との関りを通して、人と関わる力が育まれることを目指しています。2021年度より、クリストファー小学校との一体的プログラムとして、国際バカロレア 初等教育（IB PYP）の導入に取組み、2024年2月に候補校として認定されました。引き続き連携を図り、「聖隷 IB モデル」の実現と、2024年度の認定校（IB ワールドスクール）を目指します。

◆基本理念

「キリスト教主義を基盤に、心身ともに健やかなこどもの成長を育む園」

◆基本方針

- ① 聖隷学園の建学の精神である「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書に示される愛の心をもつことを願っています。創造主（神）から一人ひとりに与えられた尊い命が守られながら、生き活きと伸びていき、それぞれの内側にある力が十分に発揮されると同時に、多様性と調和を大事にし、世界の平和に貢献しようとする姿勢を育みます。
- ② 発達や学びの連続性という視点から小学校への接続を意識し、就学前の教育・保育を一体的・総合的に展開します。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容に沿って「生きる力」の基礎を身につけていくことを目標とします。
- ③ 保護者や地域住民のために子育て支援を充実させます。皆で子どもの成長を助け喜び合えるように、子どもに関するあらゆる分野の人々が協力し、子育て環境の向上に努めます。
- ④ 聖隷クリストファー大学附属の園として、大学の教員と協力し、保育の質の向上のために、また乳幼児を取り巻くさまざまな問題の解決のための実践的研究を行います。その成果を公開・発表し、幼児教育・保育業界のモデルとなる保育プログラム作りを目指します。

◆園目標

- <愛> 神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にすることが出来る気持ちをもつ。
- <思いやり> 様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
- <たくましさ> 自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
- <いのち> 食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
- <表現力> 自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
- <自立> 生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

◆保育の特色

- ① 自然の中での多様でダイナミックな体験を通して、生き生きとたくましく成長することを目指しています。
- ② 多様な文化の理解と尊重の精神を培い、より良い、より平和な世界を築くことに貢献しようとする姿勢、探究心、知識、思いやりの態度を育みます。
- ③ 大学やその他の専門機関との連携により学問的根拠に裏づけられた、質の高い幼児教育・保育を実践し、子どもの健全な育ちを目指しています。
- ④ 皆で子どもの成長を助け喜びを共有するという意識に立って、子育て支援の充実、子育て環境の向上に努めています。

(2) 中期的な計画（教務・人事・施設・財務等）及び事業計画の評価

聖隷クリストファー大学

中長期事業計画「未来創造躍進プラン」

<建学の精神> キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」

<教育理念> 建学の精神を教育・研究・諸活動の基本理念とし、建学の精神に裏付けられた保健医療福祉・教育の専門職業人を育成することによって、人々の健康と幸福、そして地域と世界の福祉に貢献します。

<ビジョン> 保健医療福祉・教育の未来を創造する 教育・研究・実践のフロンティア大学

<キャッチコピー> 隣人愛と知の技で 共に生きる社会の実現へ 聖隷クリストファー大学

<ミッションステートメント>

- 1) 建学の精神であるキリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を大学運営並びに教育・研究・実践に活かし、人々の幸福と健康、地域とアジアの保健医療福祉・教育の未来創造に貢献する。
- 2) 保健医療福祉・教育の総合大学としての学際性を活かした独創的教育を提供し、建学の精神に裏付けられた豊かな人間性と倫理観、教養と専門的知識・技能を兼ね備え、一人ひとりのために労を厭わぬ専門職を育成する。
- 3) 大学院博士前・後期課程をもつ大学として、卓越した研究成果と知を創造し、保健医療福祉・教育の発展に貢献する高度専門職者並びに研究・教育者を輩出する。
- 4) 社会に開かれた大学として、地域社会における保健医療福祉・教育に関する教育・研究・実践の拠点を形成し、共生社会の実現への使命を果たす。
- 5) 国際的な保健医療福祉・教育の課題解決に向けて、本学の人的・知的・技術的・教育環境の資源（聖隷ブランド）を活かした国際支援及び人材育成により国際貢献に資する。
- 6) 時代を先見し、自律的な自己点検評価と大学改革の実行により、保健医療福祉・教育のモデル大学として学界・教育界をリードする。
- 7) 教職員一人ひとりが個人として尊重され自律性が認められるとともに、自己成長と協働により大学（聖隷学園）の新たな価値創造と発展に努める。

<長期目標（10年後）>

- 【教育】建学の精神と教育理念のもと、聖隷ブランドを活かした先進的かつ独創的な教育環境と教育課程及び教育方法による「聖隷教育モデル」を創出する。
- 【研究】保健医療福祉・教育分野の独創的かつ学際的な研究を推進するとともに、国内及びアジアの中核となる研究・教育拠点を形成し、新たな学問体系を創造する。
- 【学生支援】隣人愛の精神を涵養し、主体的に豊かな学生生活を送ることができる「愛と活気あるグローバルキャンパス」をつくり、愛校心と帰属意識を醸成する。
- 【就職・キャリア支援】保健医療福祉・教育の動向と展望に基づいた病院施設等との連携体制の再整備と、卒業生・同窓会との強固なパートナーシップに基づく相互支援体制を構築する。
- 【地域連携】地域の保健医療福祉・教育の基幹大学として、地域の保健医療福祉の発展に向けた大学-地域連携による教育・研究・実践の地域モデルを構築する。
- 【国際化】国際的に競争力ある大学を目指して、積極的に国際交流・支援及び人材育成を展開し、アジアの保健医療福祉・教育の教育・研究・実践のハブ（Hub）大学に発展する。
- 【学生募集】情報と企画に基づく戦略的広報活動と、高大連携及び幼小中高大・卒業生循環型の募集活動等により、募集定員を堅持するとともに、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づいた人材を受け入れる。
- 【基盤整備】質の高い教育・研究を支える人事・組織・施設設備の充実を図るとともに、内部質保証システムに基づいた自律的な自己点検・評価を実施し、大学運営及び教育研究の質の向上を促す。また、建学の精神と教育理念を遵守・維持し継続的発展を担う幹部教職員を育成する。

<中期・短期計画一覧>

短期最重点課題

- (1) 入学者目標数の達成
- (2) 内部質保証システムの見直し
- (3) 入学者の学修力等の調査・分析による教育改革の推進
- (4) 大学リソースの地域還元と社会アピール
- (5) 大学院の高度化・発展に向けた教育課程・コース開設の検討
- (6) 教育環境の改善向上に向けた点検整備
- (7) 国際教育学部の将来構想の策定

学部	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
看護学部	<p>①学部・専攻科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。</p> <p>②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。</p> <p>③社会の看護師養成の政策動向を的確に判断し、それに適う学部・専攻科－大学院（CNS・NPを含む）－特定行為研修が有機的に機能する組織体制を構築し、人材養成のための教育を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実質倍率（一般選抜前期受験者数：合格者数）：1.8以上 ・偏差値：45.0以上 ・標準修業年限卒業率：95%以上 ・国家試験の合格率：全国大学平均値以上 ・卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：60p以上 ・就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：70p以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：95%以上
	中期・短期計画（2024～2026年度）	
	<p>◇新カリキュラムの着実な推進と評価</p> <p>◇看護教育推進のための教育環境の整備と充実</p> <p>◇地域住民の健康推進への貢献と、看護教育の連携による新たな教育展開</p> <p>◇大学院における新たな展開を学部教育に反映し、学生のキャリア形成につながる、広がりを持った学部-大学院教育の充実</p> <p>◇5年先を見据えた教員配置と人材育成</p> <p>◇専攻科の教育特徴・資源を活かし社会のニーズを捉えた教育課程の実践と評価体制を構築する。</p>	

学部	中期目標(2024～2026年度)	中期目標:客観指標(2024～2026年度)
社会福祉学部	①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。 ②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。 ③社会の要請に応え得る質と数の介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士(公認心理師)を養成し輩出する。 ④社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士(公認心理師)を養成し輩出する。	・実質倍率(一般選抜前期受験者数:合格者数):1.2以上 ・偏差値:40.0以上 ・標準修業年限卒業率:95%以上 ・国家試験の合格率:全国大学平均値以上 ・介護福祉士取得希望者:20名 ・社会福祉士取得希望者:45名 ・精神保健福祉士取得希望者:25名 ・公認心理師取得希望者:15名 ・卒業生満足度「卒業前に:この大学で学べたことは有意義であった」:60p以上 ・就職満足度「進路について:希望する進路先に就職、または進学することができた」:60p以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」:95%以上
	中期・短期計画(2024～2026年度)	
	◇入学定員の充足 ◇福祉心理コースの円滑な運営 ◇教育課程の評価・見直し ◇教員体制と教育環境の充実 大学院公認心理師養成課程担当を含む教員の適切な配置計画の策定 ◇介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の人材育成と輩出 ◇「子ども家庭ソーシャルワーカー」養成に向けての情報収集、対応の検討 ◇海外でのソーシャルワーク研修の新設 ◇こども教育福祉学科の小学校教員採用実績の維持・向上 ◇小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員の人材育成と輩出、並びに特別支援学校教諭の人材育成と輩出の支援	

学部	中期目標(2024～2026 年度)	中期目標:客観指標(2024～2026 年度)
リハビリテーション学部	<p>①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。</p> <p>②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。</p> <p>③国際リハビリテーションコース(2024 年度終了)および国際保健医療福祉プログラム(2022 年度開始)の着実な実施により、国際的活躍を指向するリハビリテーション専門職者と教員の養成を推進する。</p> <p>④地域包括ケアシステムを視野に入れ、地域に貢献する学部として、臨床・研究・教育実践モデルを構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者実人数(一般選抜前期):PT160 名、OT120 名、ST80 名 ・偏差値:PT47.5、OT42.5、ST40 以上 ・標準修業年限卒業率:95%以上 ・国家試験の合格率:全国大学平均値以上 ・国際コース・プログラム履修者:6 名 ・国際的活動に関連する進路選択:1 名(進路)国際支援に関連する団体施設等への就職, 大学院, 留学など ・「地域リハビリテーション実践教育センター(仮称)」を 2025 年度に開設する。 ・卒業生満足度「卒業前に:この大学で学べたことは有意義であった」:PT 学科・OT 学科 60 p以上/ST 学科 50p以上 ・就職満足度「進路について:希望する進路先に就職、または進学することができた」:PT 学科・OT 学科 60p以上、ST 学科 50p以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」:90%以上
	中期・短期計画(2024～2026 年度)	
	<ul style="list-style-type: none"> ◇国際リハビリテーションコース(2024 年度修了)および国際保健医療福祉プログラムの着実な展開(大学院との接続による卒業生の発展的な進路提供) ◇企業との連携体制の強化による新たな教育方法の導入と教育成果の検討 ◇「地域リハビリテーション実践教育センター(仮称)」の開設に向けての体制整備 ※2024 年度リハビリテーション学部 20 周年記念事業として位置づける。 ◇3 学科の特色を活かした学生募集戦略の実施、定員充足のための着実な広報活動 ◇入試制度(併設校推薦・指定校推薦・総合型選抜)の見直しと実施 	

学部	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
国際教育学部	<p>①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。</p> <p>②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。</p> <p>③社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。</p> <p>④将来の教育と心理分野の人材養成に適う国際教育学部大学院の将来構想を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定員充足 ・偏差値：42.5 以上 ・標準修業年限卒業率：95%以上 ・採用試験の合格率：浜松市・静岡県内大学 平均値以上 ・小学校教諭養成：15～20 名 ・認定心理士：10 名 ・発達支援士（仮称：本学認定資格）：25 名 ・卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：60 p 以上 ・就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：60 p 以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：90%以上
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<p>◇入学定員の充足 卒業生の各園・各校での活躍を中心とした広報戦略を構築する。</p> <p>◇社会の要請に応え得る質と数の小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員・特別支援学校教諭・認定心理士（公認心理師）の人材育成と輩出とそのため授業改善、さらなる豊かな体験や経験の機会の整備</p> <p>◇3つの系の履修モデルの明確化</p> <p>◇教員体制と教育環境の充実：地域を代表する先進的な教育と研究の場となることを目指す。</p> <p>◇教育変革 EX の動きに見合う教育課程や授業の改善・向上、公開講座や教育環境等の整備</p> <p>◇クリストファーこども園・小学校との国際バカロレア教育に関する日常的な実践研究・情報交換など連携・協働体制の構築</p> <p>◇「国際バカロレア教員養成プログラム」の5年（2025 年度）経過後の審査の準備</p> <p>◇「国際バカロレア・現職教員養成プログラム」における募集方法の検討（英語・オンライン等）</p> <p>◇小学校教員採用実績の維持・向上</p> <p>◇卒業生や近隣の教員・保育士の実践研究の支援（聖隷国際教育学会等の活動の充実）</p>	

研究科	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
大学院共通	<p>①保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。</p> <p>②研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉分野の新たな知の創造を目指す。</p> <p>③アジアを中心としたグローバルな保健医療福祉分野の研究・教育拠点を形成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期・後期大学院生の定員充足 ・ 学部卒業生からの進学者数：10%以上 ・ 各研究科留学生：1名以上 ・ 国際コンファレンスの定例開催
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<p>◇アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づく入試判定に向けた検討とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位 授与の方針）の到達度の確認方法の検討</p> <p>◇教育課程の編成・実施方針について、教育課程の実施に関する基本的な考え方の検討</p> <p>◇カリキュラムの検討（2025 年度申請・2026 年度施行）</p> <p>◇SIRC2025 の運営を検討（オンライン・ハイブリッド）</p>	
看護学研究科	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<p>◇高度実践看護職育成のための NP（Nurse Practitioner（ナース・プラクティショナー））教育課程の運用</p> <p>◇専修免許取得コース教育課程の開設準備と設置</p> <p>◇資格取得コース（保健師、助産師）の設置について検討を行う</p> <p>◇地域の専門職者及び学問分野に寄与する研究活動発展のための研究プロジェクトの構築</p> <p>◇学内循環型の人材育成の推進</p>	
リハビリテーション科学研究科	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<p>◇前期・後期の定員充足</p> <p>◇国際共同研究・国際共同教育の実践</p> <p>◇研究成果の公表方法の確立（出版会等）</p> <p>◇院生募集強化策の立案と実践</p> <p>◇入学定員の充足に向けた活動の充実（臨床施設との連携強化、専門セミナーの開催、大学院生の研究費応募支援など）</p> <p>◇高度実践リハビリテーションコースの運用</p> <p>◇論文投稿による学位審査（博士後期課程）の運用</p> <p>◇ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位 授与の方針）の到達度の確認方法の検討</p>	
社会福祉学研究科	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<p>◇大学院の PR に努め、博士前期課程の定員充足率 50%以上を安定的に維持できている状況を目指す。</p> <p>◇研究指導のための教員間連携体制を強化するとともに、学部と連携して計画的な大学院教員人事を図る。</p> <p>◇院生の研究指導体制の充実を図る。</p> <p>◇公認心理師コース設置の準備を進める。</p> <p>◇基盤科目の充実に必要な教員配置を図ると同時に、公認心理師コース開設に向けた教員配置を整える。</p>	

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
教育	①学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。 ②学位授与方針に適した保健医療福祉及び教育・保育の専門職を輩出するため、適正な成績評価を実施する。 ③国際社会に貢献できる人材を育成するため、学生の英語教育と国際交流・活動を推進する。	・地域実践アクティブラーニングの実践活動と参加学生の推移（DP7のDPルーブリック達成度評価の平均、卒業時4.0以上） ・レポート評価・演習・実習科目におけるルーブリック活用：各学部目標数 ・学生の国際研修、国際支援アクティブラーニングの参加推移 ・ティーチング・ポートフォリオの専任教員全員実施
	中期・短期計画（2024～2026年度）	
	◇アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証の体制の構築 ◇データがたまる、つながる仕組みの構築、学習の理解度、習熟度向上につながる教材、コース設計 ◇地域実践アクティブラーニング、国際支援アクティブラーニングの発展的展開 ◇国際保健医療福祉プログラム（副専攻）の点検・評価と改善（2025年度完成） ◇ティーチング・ポートフォリオの定着 ◇自律学修を促進するための、図書館利用機会の拡充	

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
学生支援	①隣人愛の精神のもと愛と活気あるグローバルキャンパスを作る。 ②学修につまずきのある学生に対する全学的な支援体制を整備する。 ③健やかで豊かな学生生活を実現するため、学生の心身の健康や生活及び経済的な支援を充実する。	・事件・事故の発生件数：前年度以下 ・満足度調査（他学部の学生と交流できた／サークル等を通じて他学部の学生との交流がある）の満足度指数を改善する。
	中期・短期計画（2024～2026年度）	
	◇学生の支援体制（心身の健康・学修支援・経済支援・正課外活動・生活支援）の充実 ◇建学の精神と、自校愛の醸成に向けた学生との協働 ◇学部を超えた学生交流の機会創出 ◇国際人育成のためのグローバルキャンパス	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
F D	①学生支援並びに教育に向けた教職員の資質向上を目指し、各種研修会の充実と教職員・学生の連携を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生 FD スタッフが内部質保証に参画する体制を整える。 ・学生 FD スタッフが教育改善活動に参画する企画を実施する。 ・学部 FD 研修会、全学 FD/SD 修会：参加率 100% ・授業評価の実施：100% ・ピアレビューの実施：100%
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<ul style="list-style-type: none"> ◇学生 FD スタッフを全学的に組織化し、内部質保証および教育改善活動への参画体制を強化 ◇教職－学生共同による全学・学部 FD 活動の強化（FD サロンなどの充実・他大との学生 FD 交流など）に向けた学生 FD スタッフの参画を検討 ◇学生の動機付けモデルに基づいた授業評価による授業改善・向上の強化（学部/全学 FD 研修の充実・学生の動機付けモデルに基づいた授業評価の検討と策定など） 	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
就職・キャリア支援	①在学学生・卒業生の多様で豊かなキャリアを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率 100%（就職希望者に占める割合） ・卒業生満足度調査項目「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：満足度指数 65 以上 ・病院施設への訪問：年間 20 か所以上 ・病院施設説明会参加数：各学部 20 施設以上 ・ホームカミングデーの参加者数：前年度比増
	②病院施設等と保健医療福祉及び教育・保育の最新動向や方針を共有し、長期スパンで相互に助け合い、高め合う協力体制を目指す。	
	③卒業生の母校への絆を育成するため、本学を卒業したことの魅力を再認識してもらおう。	
中期・短期計画（2024～2026 年度）		
<ul style="list-style-type: none"> ◇病院施設等との懇談会、訪問、アンケート調査を通し、積極的に情報発信および情報収集を行い、それを学内へ還元する。 ◇同窓会報・学報・ホームページ等を通して、卒業生目線を持ち、聖隷の魅力を伝える。 ◇社会人基礎力の評価を行うためのツール作成並びに運営を行う。 		

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
国際化	①グローバル化を発展させるため、本学の資源を活用して、アジアを中心とした国及び地域・機関等と共同事業や人材育成を発展させる。 ②留学生の受け入れのための基盤整備を充実させる。（経済支援、学内組織、教育体制、教員の英語力強化の取り組み）	・国際支援アクティブラーニングの事業と参加学生の定着：20%以上 *留学生受け入れ：5人、短期100人 *学生の海外派遣：短期100人/年 *海外大学との交流協定校締結：10件
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇グローバル化の発展に向けた教育環境の整備 ◇優秀な外国人留学生受け入れ	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
研究	①研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉及び教育・保育の学術の発展に寄与する。	・科研申請率：80% ・科研採択率：30% ・年間1教員1学会発表（公演等含）・1論文発表（書籍等含） *受託研究、共同研究の件数：10件/年
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇科研費等学外研究費獲得の推進 ◇産学連携事業・研究の推進のための学内基盤整備 ◇研究インテグリティの確保と利益相反マネジメントに関する体制・規程の整備	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
地域連携	①地域の保健医療福祉及び教育・保育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学等と連携共働の事業を推進する。	・浜松市ウエルネス推進協議会参画団体との共同事業実施：3件/年 ・浜松市と大学との連携事業～大学生による講座：6講座/年 ・地域連携事業費の応募件数：10件/年 *公開講座・シンポジウムの実施件数：15件/年
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇保健医療福祉及び教育・保育で浜松市との連携の継続 ◇地域連携事業の発展による教育・研究・実践の地域モデルの構築 ◇公開講座を開催し広く保健医療福祉及び教育・保育に関する最新の知識や情報の提供	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
学生募集	①アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 ②こども園から大学・大学院、卒業生循環型の募集活動を推進する。 ③保健医療福祉及び教育・保育の総合大学としての価値とブランド力の向上を図る。 ④高大接続改革、学習指導要領の改訂に対応した入試制度となっているか、毎年実施する追跡調査も参考に見直しを継続する。	・定員充足率：100% ・河合塾入試難易度 看護 45.0、理学 47.5、作業 42.5、言語・社会福祉・国際教育 40.0 ・メディア掲載数：20 件/年間 ・併設高校進学者割合：看護 20%、リハビリ・社会福祉 15%、国際教育 12% * オープンキャンパス来場者数：1,750 人／年
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<p>定員確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇各学部・学科の特長を明確にした募集広報戦略の立案と実行 ◇重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開 ◇学园内、卒業生循環型の募集体制の確立 ◇聖隷福祉事業団など就職先と連携した広報活動の拡充 <p>入試改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇総合型選抜、学校推薦型選抜の評価と見直し ◇入学者受け入れの方針(AP)に定める「求める学生像」を得るための選抜方法の点検と見直し 	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
ICT	①社会の技術革新に適う人材育成に向けた、ICT等の教育ツールの活用と教育・学生支援を充実する。	・全学 LAN の 10Gbps 対応、教育研究基盤保証型、高信頼性の確保およびクラウド移行
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<ul style="list-style-type: none"> ◇パソコン必携を前提とした双方向型の授業展開、成果物や思考過程の可視化を推進 ◇学術情報ネットワークを活用した、高速、大容量、他大学連携に対応した教育研究基盤整備 ◇5年後、10年後を見通したDX推進計画の策定 	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (1) 組織運営	①社会の情勢変化や保健医療福祉分野へのニーズに対応し、また大学ブランド力を発展させるため、学部・研究科の体制を有効・効果的かつ柔軟に編成・整備する。 ②大学の継続的発展のため、卒業生の中から本学の将来を担う優秀な人材を育成して、本学の歴史と教育理念を継承する。 ③教育研究並びに諸活動の質の向上を促すため、公正かつ適切な教員評価を実施する。 ④次世代を担う幹部教職員を育成し、活力あるイノベーティブな教職員組織を形成する。 ⑤業務の効率化・合理化とコスト管理を行い、資源の有効活用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費比率 65%未満 ・教員一人あたりの学生配置数：13 人未満 ・教員年齢分布：40 未満 1/6、41～50 歳 2/6、51～60 歳 2/6、61 歳以上 1/6 ・卒業生・大学院修了生の教員配置：1/3 ・本学卒業生を教員として積極的に採用し、専任教員に占める本学卒業生の割合：50% ・幹部教職員の育成
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<ul style="list-style-type: none"> ◇教員配置計画に対する教員の充足 ◇教員配置、非常勤講師、準教員の適正配置 ◇卒業生の教員採用 ◇教職員の働き方改革 ◇組織運営・資源（人・金・物・時間）活用の見直し 	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (2) 教育研究環境の整備	①快適な学習環境の実現と主体的な学修の推進および学修力の向上を促すため、教育環境の点検と整備・充実を図る。 ②教育研究環境の充実を図るため、各種補助金を獲得及び教育発展基金を開設する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育改革推進経費（学長裁量経費）の見直し（教育研究経費の5%以上 ・「私立大学等改革総合支援事業」（タイプ3「プラットフォーム形成」）の採択 ・他大学との教養教育共同化及び単位互換 ・教育発展基金：開設
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	<ul style="list-style-type: none"> ◇教育発展基金の開設（制度・受け入れ窓口の開設） ◇ICT 環境の高度化、情報システムの統合・集約（認証方法の統一、情報の一元化） ◇校舎・教室等の保全と改修・修繕 * プラットフォームふじのくに地域・大学コンソーシアムにおける活動計画の実施 【①県内の経済4団体と県内大学生との意見交換会（年2回）、②県内の経済4団体とプラットフォームとの意見交換会（年1回）、③社会人のキャリア形成を目的とした共同プログラムの策定（1件）、④県内の高等教育機関の共同学生募集活動（年3回）、⑤県内の高等教育機関のBCP策定】 	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (3) 内部質保証及び情報公開	①内部質保証システムを有効に機能させ、自律的に自己点検・評価と改善を図るとともに、適切に情報公開する。 ②教学に関する IR 情報の分析を通して、学生募集、入学試験、教育課程、卒業生等における教学改革方針の策定及び施策等に関する意思決定をサポートする。	・ IR 有効活用等による教学マネジメントの体制構築と適切な運用 (PDCA サイクル) ・ 認証評価受審適合判定 (2023)
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇2023 年度認証評価受審後の改善事項への対応と内部質保証の向上 ◇改善報告書の作成・提出（2027 年 7 月までに大学基準協会へ） ◇教学 IR 委員会と自己点検・評価運営委員会との連携による教学改善 ◇第 4 期認証評価を見据えた内部質保証システムの再構築	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (4) 安全管理	①安心・安全な教育研究環境を提供するため、学内・職場の安全・衛生管理の推進、及び情報セキュリティの基本方針に沿った情報管理に努める。	・ コンプライアンス案件：0 ・ ハラスメント案件：0 ・ 教職員のストレスマネジメント：偏差値 50 ・ 「本学がハラスメントの報告や相談を安心してできる職場であるか」という主旨の質問項目を設け、実情を把握する。
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇リスクマネジメントの強化 ◇ハラスメントのない大学環境を創出する。 ◇BCP (Business Continuity Plan、緊急事態時の被害を最小限に抑え、事業が継続できるように対策や方法をまとめた計画) 対策、データバックアップ、障害早期復旧体制の強化	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (5) その他	①学園の将来構想（グローバルスクール：国際教育学部、メディカルスクールの設置）に向けた大学改革を実行する。	・ 大学の将来構想の設計
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇国際教育学部の学科増または定員増および教育・心理学研究科の設置（2029 年 4 月）の準備 ◇大学の中長期事業計画の見直し（2026 年度内に）	

聖隷クリストファー大学 2023 年度事業計画 評価

◎：目標を達成した ○：おおむね目標を達成した △：行動計画は実施したが目標を達成できなかった
▲：行動計画が未実施で目標を達成できなかった

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
看護学部	学部・専攻科の教育特徴を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	新カリキュラム推進のための CBT・OSCE による評価の推進	1-① 新カリキュラム推進のために本学独自の CBT・OSCE を計画し、一部実施する。	○
		看護教育充実のための教育環境の整備と充実	1-② セルフトレーニングルーム・実習カンファレンス等多目的教室として稼働する(年度内に運用マニュアル作成と 200 名以上が活用)	○
			1-③ アクティブラーニングを中心とする新カリキュラムに対応した看護教育を推進できる環境整備を推進する。	○
			1-④「看護学教育推進センター」(仮称)の開設WGを設置する。	△
	社会の看護師(職)養成の政策動向を的確に判断し、それに適う学部大学院(CNS・NPを含む)、特定行為研修が有機的に機能する組織体制を構築し、人材養成のための教育を行う。	保健師教育の充実と社会の要請に応える人材輩出	2-① 保健師選択学生が社会の要請に応じて、静岡県保健所および県内市町保健センター、県外保健所、市町村保健センターに保健師として就職する学生を前年度に比較して 10%増とする。	○
助産学専攻科	専攻科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	専攻科の教育特徴・資源を活かし社会のニーズを捉えた教育課程の実践と評価体制を構築する。	1-① 新カリキュラムの教育目標である、予測性のある助産診断と実践力の強化に向けて、フィジカルアセスメント力を高め「助産診断・技術学」と「ハイリスクケア論」(10 単位)の演習・実習の評価が平均 80 点以上とする。	◎
社会福祉学部 社会福祉学科	社会の要請に応え得る質と数の介護福祉士・社会福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師を養成し輩出する。	介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士の人材育成と輩出する。	1-① 介護福祉士への関心拡大に向けた取り組みを行い、入学時コース希望者を 15 名獲得する。	○
		公認心理師養成課程に向けての準備	1-② 現職の介護人材に対して学びの場を提供する。	◎
			1-③ 初年次の「公認心理師」養成課程の円滑な実施を目指し、次年度に向けた実施計画を策定する。	◎
こども教育福祉学部 社会福祉学科	社会の要請に応え得る質と数の小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員・特別支援学校教諭の人材育成と輩出する。	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員の人材育成と輩出、並びに特別支援学校教諭の人材育成と輩出の支援	2-① 小学校教員採用試験合格 60%を目指し、対策講座を学科体制で強化する。(4~8 月)	◎
			2-② 保育・幼児教育の現状や課題に即した質の高い保育士・幼稚園教諭の輩出を目指し、学生の意識をこれからの保育・幼児教育のリーダーとなれるように転換する。	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
リハビリテーション学部	国際リハビリテーションコース（2024年度終了）および国際保健医療福祉プログラム（2022年度開始）の着実な実施により、国際的活躍を指向するリハビリテーション専門職者と教員の養成を推進する。	○国際リハビリテーションコースの修了（2024年度）と国際保健医療福祉プログラムへの移行と発展 ○国際リハビリテーションコース（2024年度修了）および国際保健医療福祉プログラムの着実な展開（大学院との接続による卒業生の発展的な進路提供）	1-① ○国際保健医療福祉プログラム履修者：6名 ○国際的活動に関連する進路選択：2名 進路）国際支援に関連する団体施設等への就職、大学院、留学など	○
	学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独自の教育を発展させる。	企業との連携体制の維持および強化（産学連携による教育・実践モデルの構築）	2-① 企業との連携体制の強化と学内外への周知を図る。 2-② 産学連携による教育成果について検証する。	○ ○
	地域包括ケアシステムを視野に入れ、地域に貢献する学部として、臨床・研究・教育実践モデルを構築する。	学部・学科の教育特徴・資源を活かした「地域リハビリテーション実践教育センター（仮称）」の開設に向けての体制整備	3-① 学部・学科の特性を生かし、「学校教育・保育分野（特別支援教育など）・ヘルスプロモーション分野」で活躍できるリハビリテーション専門職の養成を目的とした教育内容を検討し、2024年度入学生の新たなカリキュラムに反映する。 3-② リハビリテーション学部 20周年記念講演会を、2024年に実施できるように体制を整える。	△ △
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	各学科の教育特長を反映した学生募集戦略の検討と実施 定員充足のための着実な広報活動 学部学科の教育特長の明確化 入試制度（指定校推薦・総合型選抜）の見直しと実施	4-① 入学定員の確保：充足率 100%（入学者目標数：理学療法 44、作業療法 33、言語聴覚 28） 4-② オープンキャンパスの参加者を増やす。（参加者目標数：理学療法 240、作業療法 110、言語聴覚 100） 4-③ 学部・学科の特長をアピールし、他大学との差別化を図る。 4-④ 入試制度（総合型選抜、学校推薦型選抜）の見直しと評価	◎ ○ ○ ◎
	学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独自の教育を発展させる。	「国際教育学部」設置に向けて準備を整え、初年度、円滑に運営する。	1-① 3つの系（教育・保育・心理）の特長や将来像を学科教員間で明確化し、社会福祉学部こども教育福祉学科とは異なる新たな学部教育の全体像を構築する。	○
社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。	入学定員の充足のための入試制度の見直しと学生募集の工夫・強化	1-② 保幼小・特支といった資格・免許に加えて、発達支援士（仮称）・IBEC・公認心理師などへの認知度を上げる取り組みを強化する。	◎	

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
看護学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	高度実践看護職育成のためのNP(Nurse Practitioner(ナース・プラクティショナー)教育課程の開設準備	1-① NP 教育課程について広報活動を展開し、出願者を確保する	○
		教育研究指導強化のための教員組織(領域編成)の再編の検討	1-② 指導教員を強化した新領域による複数教育体制に必要な課題の抽出と共有	△
		保健医療福祉分野のイノベーションをリードするための高度な専門職者、教育者の輩出	1-③ 職業実践力育成プログラム(BP)に申請し認可を受け広報活動を展開する	○
	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉の新たな知の創造を目指す。	地域の専門職者及び学問分野に寄与する、研究活動発展のための研究プロジェクトの構築	2-① 研究科構成員はじめ、学部教員の研究力の発展させるための、研究プロジェクトの発足	○
		学内循環型の人材育成の推進	2-② 卒業生、学部生への広報活動の強化と見直し、定員充足を図る	○
リハビリテーション科学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	論文投稿による学位審査(博士後期課程)プロセスの検討	1-① 論文投稿による学位審査(博士後期課程)を決定し、諸規程を変更する。	◎
			2-① SIRC2025 の開催地を本学以外の大学を含めて検討し方針を決定する。 2-② 専門セミナーを1回開催する。	◎ ○
	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	前期・後期の定員充足	3-① 臨床施設へ訪問をし、本学リハビリテーション科学研究科を説明すると共に、本研究科や大学院教育について意見交換をする。	◎
	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	カリキュラムの検討	4-① 新カリキュラム案を立案する。	△

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
社会福祉学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門職的知識と技術を有し社会の立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	浜松市の福祉保健活動の推進に貢献する。同時に、大学院の定員充足を視野に入れ、地域の社会福祉関係者向けの講座やシンポジウム、研修等の機会を活用する。さらに、入試広報センター、キャリア支援センターと連携して大学院のPRを進めていく。	1-① 大学院のPRに努め、博士前期課程の定員充足率50%以上を安定的に維持できている状況を目標とする。 1-② 公認心理師コースの設置準備をおこなう。	△
		研究指導のための教員間連携体制を強化するとともに、学部と連携して計画的な大学院教員人事を図る。	1-③ 複数教員体制での円滑な研究指導を実施する。また、将来を見据えた研究科運営体制を整える。	○
				◎
教務	学位授与方針に適した保健医療福祉の専門職を輩出するため、適正な成績評価	アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証(学問分野別の質保証)の体制の構築	1-① 2024年度に向けて、DPルーブリックを改定し、DPルーブリックに基づく学修支援の体制を再構築する。 1-② アセスメントポリシーを中心とした評価の実施要領を作成する。 1-③ 教育方法等に関する大学方針の明文化する。	△
	学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。	データがたまる、つながらざる仕組みの構築、学習の理解度、習熟度向上につながる教材、コース設計	2-① 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)に申請する。	○
国際保健医療福祉プログラム	国際社会に貢献できる人材を育成するため、学生及び教員の英語教育と国際交流・活動を推進する。	国際保健医療福祉プログラム(副専攻)の確実な運営(2022年4月開始)	1-① 国際保健医療福祉プログラム(副専攻)を選択する学生を増やす。	◎
			1-② 個々のプログラムは、グローバルに活躍できる基礎的な力が身につく活動にする。	○
学生支援	健やかで豊かな学生生活を実現するため、学生の心身の健康や生活及び経済的な支援を充実する。	学生の支援体制(健康管理・学修支援・経済支援)の充実	1-① 簡易スクリーニング調査により精神的な問題を抱える2~4年の学生を早期に把握し、適切に支援する。回答率は100%を目標とする。	◎
			1-② 小児感染症について保健医療福祉及び教育・保育の専門職を目指す学生に対して社会的な現状に即した感染予防対策となるよう行の対策を再構築する。	◎
		学部を超えた学生交流の機会創出	1-③ 学生の課外活動の支援方針及び計画を作成する。	○

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
F D	学生支援並びに教育に向けた教職員の資質向上を目指し、各種研修会の充実と教職員・学生の連携を促す。	授業評価やピアレビューによる授業改善・向上のさらなる推進（FD研修とFDサロンの充実・学生の動機付けモデルに基づいた授業評価の検討と策定など）	1-① 授業評価に関する学生、教員の負担軽減をはかり、学生の主体的な学修に関する評価ができる授業評価を実施し、回答率を上げる。授業評価回答率 70%。	◎
		学生FDスタッフの全学的な組織化と教育改善活動への主体的な学生参加の促進（他大との学生FD交流を含む）	1-② 全学FD研修を年に二回実施する。 教員のFD研修参加 100%	◎
			1-③ 学生主体の全学的な学生FDスタッフの意識を高め、教育改善活動への参画を促す体制について検討する。学生FDスタッフ代表者による会議を各セメスター1回、FDサロンは各学部2回以上開催する。	○
就職・キャリア支援	在学生・卒業生の多様な豊かなキャリアを支援する。	保健医療福祉・教育や最新の動向を踏まえたキャリア支援を行う。	1-① 就職率 100%（就職希望者に占める割合）を維持しながら、就職活動を通し、自分で考える力や社会人基礎力等を高める	○
	病院施設等と保健医療福祉・教育の最新動向や方針を共有し、長期スパンで相互に助け合い、高め合う協力体制を目指す。	在学生・卒業生の多様な豊かなキャリアを支援する。	2-① 病院・施設等就職先に対し、職員の大学院進学による双方のメリットを示すことで、受け入れ態勢の構築を目指す	○
	卒業生の母校への絆を育成するため、本学を卒業したことの魅力を再認識してもらう。	広報誌・同窓会報・ホームページ等を通して、卒業生目線を持ち、聖隷の魅力を伝える。	3-① 卒業生および在学生の帰属意識を高める	○
グローバル教育推進	グローバル化を発展させるため、本学の資源を活用して、アジアを中心とした国及び地域・機関等と共同事業や人材育成を発展させる。	グローバル化の発展に向けた教育環境の整備	1-① ポストコロナに合った交流活動を交流協定校と行う。	◎
			1-② 国際バカロレア教員養成（IBEC）プログラムの更新の準備をする。	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価																														
研究推進・研究倫理	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉・教育の学術の発展に寄与する。	産学連携事業・研究の推進のための学内の基盤整備	1-① 研究活動の推進：共同研究費及び科研費等の外部資金の申請・獲得件数の回復を図る。 申請件数の実績（2024.3.4現在） 共同研究Fを除く。科研費学外者含む。 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>2021</td> <td>2022</td> <td>2023</td> <td>2024</td> </tr> <tr> <td>共同研</td> <td>26</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>科研</td> <td>41</td> <td>39</td> <td>32</td> <td>40</td> </tr> </table> 採択件数の実績（2024.3.4現在） 共同研究Fを除く。科研費学外者含む。 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>2021</td> <td>2022</td> <td>2023</td> <td>2024</td> </tr> <tr> <td>共同研</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>4月に判明</td> </tr> <tr> <td>科研</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> </table>	年度	2021	2022	2023	2024	共同研	26	16	14	20	科研	41	39	32	40	年度	2021	2022	2023	2024	共同研	23	16	14	4月に判明	科研	11	12	9	9	○
	年度	2021	2022	2023	2024																													
共同研	26	16	14	20																														
科研	41	39	32	40																														
年度	2021	2022	2023	2024																														
共同研	23	16	14	4月に判明																														
科研	11	12	9	9																														
	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉・教育の学術の発展に寄与する。	産学連携事業・研究の推進のための学内の基盤整備	2-① 研究倫理に関する研修会を1回/年開催し、出席率100%とする。（2023年9月） 2-② 倫理申請書の電子申請について整備する。（2024年2月）	◎ ◎																														
地域連携	地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学等と連携共働の事業を推進する。	保健医療福祉・教育分野で浜松市との連携の継続 地域連携事業の発展による教育・研究・実践の地域モデルの構築	1-① 「浜松市との連携事業～大学生による講座」を年間6講座実施する。	◎																														
			1-② 2024年度地域連携事業費にて、学生が参画する事業を3件採択する。 1-③ 地域連携推進センター登録事業における本学教員や学生の地域での活躍を積極的に大学ホームページで取り上げる。（HPへの掲載10件）	○ ◎																														
入試・広報	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	定員確保に向けた積極的な募集広報活動	1-① 入学定員の確保 看護156名、理学療法44名、作業療法33名、言語聴覚28名、社会福祉60名、国際教育50名、専攻科17名	△																														
	保健医療福祉及び教育の総合大学としての価値とブランド力の向上を図る。	情報収集と企画に基づく戦略的な募集広報活動の展開	1-② 卒業生の活躍と専門職の役割、やりがい高校生、保護者に伝え、将来のイメージを持ってもらう。	○																														
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	情報収集と企画に基づく戦略的な募集広報活動の展開	2-① 高校との関係強化を図る。 高大連携事業の再開 高校訪問の継続、県外への展開	○																														
	保健医療福祉及び教育の総合大学としての価値とブランド力の向上を図る。	学園内、卒業生循環型の募集体制の確立	2-② クリストファー高校からの入学者を増やす。 看護25名、理学療法6名、作業療法4名、言語聴覚3名、社会福祉5名、国際教育6名	○																														
		継続的な入試制度の点検、見直し	3-① 学習指導要領の改定内容に沿った2025年度入試要項の決定、公表(7月)。 3-② 2021～23年度入試における入試改革の評価と見直し 3-③ 英語外部検定、調査書の評価に関する検討、公表(2月)	○ ○ △																														

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
入試・広報	(看護学部) アドミッション・ポリシーに 適した資質の高い入学者を 受け入れる。	各学科の教育特長を反映した 学生募集戦略の検討と実施	4-① 入学者の確保 (2024年度：156名) 4-② 併設校からの入学者を増やす (目標：一般含め25名)。	○ ◎
	(社会福祉学部) アドミッション・ポリシーに 適した資質の高い入学者を 受け入れる。	入学定員の充足 公認心理師養成課程新設について 周知をはかる	5-① 入学定員(60名)の確保。 (内訳) 推薦系45名 一般系15名 5-② 重点校、指定校との関係強化 5-③ 公認心理師養成課程の認知 向上を図り、履修希望者15名を得る。	△ ○ ○
	(リハビリテーション学部) アドミッション・ポリシーに 適した資質の高い入学者を 受け入れる。	各学科の教育特長を反映した 学生募集戦略の検討と実施 定員充足のための 着実な広報活動 学部学科の教育特長の 明確化 入試制度(指定校推薦・ 総合型選抜)の見直しと 実施	6-① 入学定員の確保：充足率100% (入学者目標数：理学療法44名、 作業療法33名、言語聴覚28名) 6-② オープンキャンパスの参加 者を増やす。 (参加者目標数：理学療法240、 作業療法110、言語聴覚100) 6-③ 学部・学科の特長をアピール し、他大学との差別化を図る。 6-④ 入試制度(総合型選抜、 学校推薦型選抜)の見直しと 評価	△ ○ ○ ○
	(国際教育学部) アドミッション・ポリシーに 適した資質の高い入学者を 受け入れる。	入学定員の充足 入学定員の充足のための 入試制度の見直しと 学生募集の工夫・強化	7-① 入学定員(50名)の確保。 (内訳) 推薦系35名 一般系15名 7-② 開設記念講演会を開催し、 学部の認知を広げる。	△ ◎
	図書館	隣人愛の精神のもと愛と 活気あるグローバルキャン パスを作る。 研究活動を発展させ、その 成果を国内外に還元して、 保健医療福祉・教育の学術 の発展に寄与する。	学生の支援体制(健康管理・ 学修支援・経済支援)の充 実 産学連携事業・研究の推 進のための学内の基盤整 備	1-① 図書館利用を増やす。 図書館に関する満足度調査 の「わからない・無回答」の 回答者を減らす。 2-① 図書館の研究支援の機 能を見直す。
ICT		社会の技術革新に適う人 材育成に向けた、ICT等の 教育ツールの活用と教育・ 学生支援を充実する。	授業、演習での必携パソ コンの全面的な活用	1-① 必携パソコンの活用につ ながる技術支援、教育支援 を充実させ、支援・相談事 例集を学内に公開する。
	学生の自律学修を促し 創造性を養うため、アク ティブラーニングによる授 業を推進し、ICTの活用 や地域における実践活動 による教育方法を開発す る。	ICT活用やeポートフォ リオ等の学修ツールの活 用定着	2-① 実習指導者、教員、 学生間の情報共有を安全に 行うための共通基盤を構築 する。	◎
	快適な学習環境の実現と 主体的な学修の推進および 学修力の向上を促すため、 教育環境の点検と整備・充 実を図る。	ICT環境の高度化、情報 システムの統合・集約(認 証方法の統一、情報の一元 化)	3-① 情報システム利用時 の認証環境(ID、パスワード 関係)を一元化する。 3-② 電子化の進展により 重要性が高まっている、情 報共有、セキュリティ管理、 大容量化に対応した基盤を 整備する。	○ △

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
基盤整備	内部質保証システムを有効に機能させ、自律的に自己点検・評価と改善を図るとともに、適切に情報公開する。	認証評価受審の準備（2022）と受審（2023）	1-① 大学基準「適合」の評価を得る。	◎
	(看護学研究科) 保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	高度実践看護職育成のためのNP(Nurse Practitioner(ナース・プラクティショナー)教育課程の開設準備	2-① NP 教育課程の認定及び特定行為研修変更の承認を得る。	◎
	大学の将来構想の設計	国際教育学部の将来構想検討委員会（仮）の設置と進め方の検討	3-① 定員増、学科増、心理系研究科設置のためのロードマップを策定する。	○
	教育研究並びに諸活動の質の向上を促すため、公正かつ適切な教員評価を実施する。	教員評価制度の評価方法の見直し	4-① 教員人事評価規程を改定し、改定した基準にて運用する。	◎
	安心・安全な教育研究環境を提供するため、学内・職場の安全・衛生管理の推進、及び情報セキュリティの基本方針に沿った情報管理に努める。	ハラスメントのない大学環境を創出する	5-① より有用な全学研修会を実施し、報告・相談しやすい環境を創る。	○

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校は、介護福祉の知識・技術・価値・理念と隣人愛の精神が統合された人間教育を行い、自分のことのように他者を考え「愛の実践」ができる介護福祉士を養成することを目的としています。

2023年度は建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」の教育活動・行事等の充実した運営を行ないました。専門学校の特徴である「礼拝」や「はじめの会」、「おわりの会」を大切に学生による運営がスムーズに行えるように支援し、それらを通し自分で考え行動でき、かつ自由にしかし礼節を知る学生の涵養を目指しました。そのために教員全員が学生ひとりひとりを大切に、質の高い教育実践を追及しました。2023年度国家試験では、2名の外国人留学生在が受験し、全員合格しました。

2024年度は6名の外国人留学生在が国家試験を受けることとなります。全員が国家試験に合格できるように国家試験対策を今まで以上に強化します。また多くの外国人留学生在が安心して学べる環境の構築にも努めます。

学生募集活動の見直しを丁寧に行い、2025年度入学者25名を目標にします。

2024年度は以下の4項目に重点を置き学校運営を推進します。

- 1 入学者を確保するための学生募集活動
- 2 知識や技術の深い理解とともに、人間力と実践力を涵養する教育の徹底
 - (1) 満足度の高い授業展開を図る
 - (2) 学力評価試験や模擬試験を有効的に用い、介護福祉士国家試験に全員が合格するよう教育・試験対策を強化する
- 3 学生支援の充実
- 4 外国人留学生の受け入れ後の対応

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 2023年度事業計画 評価

1 入学者を確保するための学生募集活動（2024年度入学者目標数40名）

本校の特長と介護の魅力・やりがい・将来性・処遇改善の状況、卒業生の活躍などをホームページ、募集行事を通して伝えていきます。SNSやダイレクトメールによる情報発信も継続・強化させることで、オープンキャンパスの参加者増、入学者増を図ります。

① 本校の特長・魅力を高校生・保護者・高校教員にわかりやすく情報発信する。

本校の特長である、①大学レベルの教育、②充実した国家試験対策と高い合格率、③きめ細やかな学生支援、④興味・関心・適性に応じた丁寧な就職・進学支援、⑤経済的なサポート体制の5点を中心にパンフレットやホームページ、SNSにより丁寧に継続して伝えていきます。

評価：○：概ね目標通りできた。

パンフレットのリニューアルにあたり、それぞれの特長についてより分かりやすく伝える構成に改めたほか、『活躍する卒業生』として2名の卒業生の活躍と介護の魅力について紹介するページを制作し、ホームページにも展開した。

② オープンキャンパスの参加者を増やし、確実に出願・入学に繋げる。

学校ホームページ、受験生情報サイトの充実、定期的なダイレクトメールの発送により、オープンキャンパス等の募集行事への参加者増を図ります。また、その後の出願まで繋がるようにサンクスレター等のフォローを行います。

評価：△：十分に達成できていない・次年度の課題である。

オープンキャンパスの参加者数は 39 名（のべ人数）と前年を下回った（-2 名）。オープンキャンパスではプログラム後半の懇談会を丁寧に行い、反応者へのダイレクトメールも定期的に送付したものの、出願に十分繋がらなかった。今年度 12 名が入学する。

③ 卒業生の活躍をホームページや募集行事、高校訪問時において紹介する。

地域で活躍している卒業生をホームページ、SNS で動画も用いながら紹介するほか、オープンキャンパスでの卒業生講話も継続することで、介護の魅力・やりがいを伝えていきます。動画等のコンテンツは重点校への訪問時にも活用します。

評価：△：十分に達成できていない・次年度の課題である。

Instagram からの動画発信など継続はしているが、発信量が十分ではなく、力強い発信とも言えない。『活躍する卒業生』の動画をホームページで紹介した。来年度に向け、施設および卒業生への依頼、取材計画の作成を行うなど、動画も含めた制作準備を整えた。

④ 奨学金支援法人と連携した募集広報活動を強化する。

奨学金の支援法人の協力を得ながら、2022 年度より「福祉のお仕事体験」を復活させています。参加した高校生には、本校への出願と当該施設の奨学金採用にスムーズに進めるようにサポートを行います。

評価：△：十分に達成できていない・次年度の課題である。

入試・広報センターとキャリア支援センターが連携し、奨学金希望者へのサポートを丁寧に行った。情報発信やわかりやすい資料などを作成しているが、奨学金の希望は外国人留学生に多く、日本人の高校生は入学時点での奨学金を希望しない傾向である。2023 年度入学予定者のうち、外国人留学生 3 名を含む 4 名が採用された。

2 知識や技術の深い理解とともに、人間力と実践力を涵養する教育の徹底

(1) 満足度の高い授業展開を図ります。

- ① 授業評価の高くない科目については授業内容等を見直し、授業の内容、方法の改善を図ります。
- ② 主体的学修（アクティブラーニング）を促す授業展開を推進します。

評価：○：概ね目標通りできた。

留学生や、学修進度が遅れている学生に対して、個別対応など丁寧な学修支援を行った。

(2) 学力評価試験や模擬試験を有効的に用い、介護福祉士国家試験に全員が合格するように教育・試験対策を強化します。

- ① 特別な支援を必要とする学生や外国人留学生を中心に、グループ学習や個別学習を強化します。
- ② 国家試験対策委員と専門学校教員が中心となり、学生がお互いに助け合いながら国家試験の勉強に取り組めるように支援を行います。

評価：○：概ね目標通りできた。

社会福祉学科と共同して計画的に進めた。

3 学生支援の充実

(1) 就職・キャリア支援

① 奨学金支援法人との協力

将来の就職先につながる奨学金支援法人の採用担当者や就職した卒業生から、当該法人の運営や介護福祉士の役割・働きなどを説明いただく機会を継続して設けます。さらに当該法人の運営理念等の理解をより深められるよう一覧化することで、就職に繋がるよう支援していきます。

評価：○：概ね目標通りできた。

就職支援プログラムを通し、奨学金支援法人についてお話を伺う機会を設けている。現在内定している 15 名のうち、14 名が奨学金支援法人へ就職する予定となっている（うち奨学生は 7 名）。

② 編入学

介護福祉専門学校卒業後に、福祉分野のより高い専門性と知識を修得することを希望する学生に対し、学園内推薦編入学制度の利用を促し、学修を本学で継続できるよう支援していきます。

評価：○：概ね目標通りできた。

進学者は当初 3 名を予定していたが、最終的には 2 名となり、進路の再検討で 1 名は就職することとなった。

③ 卒業生支援

情報発信ツール（広報誌クリストファー、ホームページ等）を使って、教員が行っている勉強会などの案内を発信していきます。また、ホームカミングデーをはじめ卒業生の来校機会を増やし、卒業生同士の情報交換のほか、在学生との交流も積極的に支援していきます。外国人留学生の卒後支援についても検討します。

評価：○：概ね目標通りできた。

ホームページや冊子等で情報発信を継続した。ホームカミングデー参加者が昨年度の 2 名から 7 名に増加した。外国人留学生については、就職した法人へのフォローを通して情報を得ている。

(2) 学生生活

建学の精神「生命の尊厳と隣人愛」を具現化した、学生支援を深め、だれもがその人らしい学生生活が送れるように支援します。

- ① 日本人学生と外国人留学生が共に学びあい、育ちあうように、教育や学生支援を行います。
- ② 人間力や組織運営力の涵養を図るために行われる、専門学校独自の行事の見直しを強化し学生生活の充実を図ります。
- ③ 交通事故等の発生がないように、各セメスターのガイダンス時等で学生に呼びかけをします。

評価：△：十分に達成できていない・次年度の課題である。

進路再検討の学生が 3 名退学し、学生の心境変化を把握が不十分であったことが反省点として挙げられる。また保証人との連携についても 2 名の学生支援において（2 年生 1 名、1 年生 1 名）不十分であった。学修進捗判定基準を制定するなど退学の未然防止に取り組む。

4 外国人留学生の受け入れ後の対応

外国人留学生の入国管理、公的機関に関する手続き、資格外労働の管理、日本語支援等、生活全般にわたるサポートを行います。外国人留学生が安心して生活し、学業に専念できる環境を作り、自立して日本での生活ができるよう、支援します。

評価：○：概ね目標通りできた。

グローバル教育推進センターのサポートを受け、コロナ対応、体調不良時の対応、就職、資格管理など、多岐にわたって支援ができています。秋セメスターからは日本語のサポートも開始予定である。

◆ 学生募集の推移

		入学 定員	2024 年度入学		2023 年度入学		2022 年度入学	
			志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
大学院	看護学研究科	15	15	14	12	10	5	5
	博士前期課程	10	10	9	8	7	4	4
	博士後期課程	5	5	5	4	3	1	1
	社会福祉学研究科	13	1	1	3	3	2	1
	博士前期課程	10	0	0	2	2	2	1
	博士後期課程	3	1	1	1	1	0	0
	リハビリテーション科学研究科	20	13	13	9	9	8	8
	博士前期課程	15	10	10	7	7	6	6
	博士後期課程	5	3	3	2	2	2	2
	大学院合計	48	29	28	24	22	15	14
大学	看護学部	150	528	165	685	158	616	160
	看護学科	150	528	165	685	158	616	160
	助産学専攻科	15	33	17	34	17	48	17
	社会福祉学部	70	114	57	118	56	132	56
	社会福祉学科	60	111	55	114	52	128	52
	編入学	10	3	2	4	4	4	4
	リハビリテーション学部	95	374	106	335	89	448	106
	理学療法学科	40	177	43	183	49	236	43
	作業療法学科	30	121	41	94	23	123	38
	言語聴覚学科	25	76	22	58	17	89	25
	国際教育学部（※）	50	105	43	133	52	99	34
	こども教育学科	50	105	43	133	52	99	34
	大学合計	380	1,154	388	1,305	372	1,343	373
総合計	428	1,183	416	1,329	394	1,358	387	

（※）国際教育学部は2023年度開設。2022年度は社会福祉学部こども教育福祉学科の人数。

	入学定員	2024年度入学		2023年度入学		2022年度入学	
		志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
介護福祉専門学校	40	12	12	23	23	22	22

◆ 国家試験合格率の推移

看護師・保健師・助産師国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	所属	2023年度		2022年度		2021年度	
		全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
看護師	大学	95.6%	94.8%	97.1%	100.0%	97.5%	99.4%
保健師	大学	98.5%	100.0%	97.5%	100.0%	94.2%	100%
助産師	専攻科	99.4%	94.1%	97.5%	100.0%	99.6%	100%

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	2023年度		2022年度		2021年度	
	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
社会福祉士	76.8%	78.0%	65.0%	75.9%	52.4%	50.9%
精神保健福祉士	82.5%	91.7%	78.8%	94.7%	73.3%	94.7%

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	2023年度		2022年度		2021年度	
	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
理学療法士	96.8%	98.0%	96.8%	100.0%	90.9%	95.7%
作業療法士	93.2%	92.9%	93.2%	91.9%	91.7%	88.2%
言語聴覚士	86.8%	72.0%	86.7%	80.0%	89.7%	89.3%

介護福祉士国家試験の合格率（養成施設新卒者）

資格名	2023年度			2022年度			2021年度		
	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門学校	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門学校	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門学校
介護福祉士	71.5%	100.0%	100.0%	75.6%	100.0%	100.0%	65.3%	100.0%	88.9%

◆ 卒業生・修了生の進路状況（大学）

2023年度 卒業生・修了生の進路状況

看護学部卒業生の内訳

（単位：人）

卒業生数	155	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	137	看護師	130	98	32
		保健師	6	5	1
		養護教諭	1	1	0
進学者数	10				
その他 (*2)	8				

(*1) 聖隷三方原病院…26名、聖隷浜松病院…39名、浜松市リハビリテーション病院…3名、聖隷横浜病院…4名、聖隷佐倉市民病院…3名、袋井市立聖隷袋井市民病院…2名、聖隷保健事業部…1名、合計78名（就職者の56.9%）

(*2) 「その他」は就職しない者8名です。

助産学専攻科修了生の内訳

修了生数	17	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	17	助産師	16	9	7
		看護師	1		1

(*1) 聖隷三方原病院…1名、聖隷浜松病院…6名、合計7名（就職者の41.2%）

社会福祉学部社会福祉学科（ソーシャルワークコース、介護福祉コース）卒業生の内訳

卒業生数	57 (SW48/介9)	内訳		静岡県内	静岡県外
			SW/介	SW/介	SW/介
就職者数 (*1)	56 (SW48/介8)	福祉施設	31/8	26/8	5/0
		医療機関	11/0	10/0	1/0
		公務員	1/0	0/0	1/0
		その他	5/0	3/0	2/0
その他 (*2)	1 (介1)				

(*1) 聖隷福祉事業団…9名（就職者の16.1%）

(*2) 「その他」は就職しない者1名です。

社会福祉学部こども教育福祉学科卒業生の内訳

卒業生数	44	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	40	公立小学校	15	7	8
		私立小学校	1	1	0
		特別支援学校	2	1	1
		公立幼稚園・保育園	4	2	2
		私立幼稚園	0	0	0
		こども園	10	10	0
		民間保育園	4	4	0
		社会福祉施設	3	2	1
医療機関	1	1	0		
その他 (*2)	4				

(*1) 聖隷学園・聖隷福祉事業団…6名（就職者の15.0%）

(*2) 「その他」は就職しない者4名です。

リハビリテーション学部卒業生の内訳

卒業生数	104	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	93	理学療法士	49	32	17
		作業療法士	26	21	5
		言語聴覚士	17	11	6
		その他の職種	1	1	0
その他 (*2)	11				

(*1) 聖隷福祉事業団…10名(就職者の10.8%)

(*2) 「その他」は就職活動中の者1名、就職しない者10名です。

◆ 就職支援 (大学)

2023年度 主な就職支援プログラム			
4月	春semester進路ガイダンス	10月	公務員試験対策講座 【社】社会福祉士国試対策講座 【社】介護福祉士国試対策講座
5月	【看】進路ガイダンス 【社】介護福祉士国試対策講座 【PT・OT】進路ガイダンス	11月	【看】4年次生による就職活動報告会 【看】保健師国試対策講座 【社】卒業生による福祉の仕事報告会 【社・こ】4年次生による就職活動報告会 【社】就職先研究(天竜厚生会) 【こ】卒業生と在学生との懇談会
6月	【ST】進路ガイダンス	12月	【看】看護師国試対策講座 【社・こ】スーツ着こなし講座 【社・こ】SPI対策模擬テスト 【社】社会福祉士国試対策講座 【社】介護福祉士国試対策講座 【社】就職先研究(聖隷福祉事業団) 【こ】就職先研究(聖隷福祉事業団) 【こ】就職先研究(天竜厚生会) 【PT・OT】リハビリテーション国試対策講座
7月	【看】進路ガイダンス 【PT・ST】進路ガイダンス	1月	【看・PT・OT】卒業時ガイダンス 【看】進路ガイダンス 【看】看護師国試対策講座 【社】介護福祉士国試対策講座 【PT】4年次生による就職活動報告会
8月	公務員試験対策講座 【PT・OT・ST】病院・施設説明会(聖隷関係) 【OT】進路ガイダンス	2月	【社・こ・ST・助】卒業時ガイダンス 【看】進路ガイダンス 【看】履歴書の文章表現・構成の理解講座 【社・こ】SPI対策模擬テスト 【PT・OT・ST】就職マナー・面接対策講座 【PT・OT・ST】スーツ着こなし講座 【PT・OT・ST】就職先研究(聖隷福祉事業団) 【OT】4年次生による就職活動報告会

9月	秋 Semester 進路ガイダンス 公務員試験対策講座 【看】キャリアセミナー(静岡県・愛知県東部) 【看】キャリアセミナー(聖隷関係)	3月	論作文対策講座、筆記試験対策講座 【看】卒業生と在学生との懇談会 【看】履歴書実践演習 【看】就職マナー講座 【看】スーツ着こなし講座 【社・こ】大規模法人就職説明会 【社・こ】施設説明会 【ST】4年次生による就職活動・国試報告会
----	--	----	---

※随時：進路相談、履歴書添削、模擬面接

※【看】：看護学部対象 【助】：助産学専攻科対象

【社】：社会福祉学科対象 【こ】：こども教育福祉学科対象

【PT】：理学療法学科対象 【OT】：作業療法学科対象 【ST】：言語聴覚学科対象

◆ 卒業生の進路状況（専門学校）

2023年度 卒業生の進路状況

(単位：人)

卒業生数	19	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	16	介護福祉士	15	15	0
		介護職	1	1	0
進学者数	2				
その他 (*2)	1				

(*1) 聖隷福祉事業団…4名（就職者の25%）

(*2) 「その他」は就職しない者1名です。

◆ 就職支援（専門学校）

2023年度 主な就職支援プログラム			
4月	進路ガイダンス	10月	2年次生による就職活動報告会 介護福祉士国試対策講座
5月	介護福祉士国試対策講座 社会人になるための基礎講座 社会人マナー講座 スーツ着こなし講座 メイクアップ講座	11月	卒業生と在学生との懇談会
6月		12月	介護福祉士国試対策講座 履歴書の書き方・面接の受け方講座
7月		1月	介護福祉士国試対策講座
8月		2月	就職内定後の心構え・社会人としての心構え講座 卒業時ガイダンス
9月	進路ガイダンス	3月	就職先研究（聖隷福祉事業団） 施設説明会

※随時：進路相談、履歴書添削、模擬面接

◆ 2023 年度奨学金受給状況《大学・大学院》

所属	学年	菅野・太田・長谷川奨学金	大学同窓会・後援会奨学金	看護学研究科生支援奨学金	聖隷グループ奨学金	日本学生支援機構奨学金				K・M・奨学金	M・H・奨学金	難波千鳥奨学金	廣田育英会奨学金	浜松市奨学金	静岡県看護職員修学貸与金	静岡県看護協会修学貸与金	静岡県介護福祉士修学資金	静岡県保育士修学資金	ニッセイ聖隷健康福祉財団奨学金	合計			
						合計	第一種	第二種	給付											在学生数	貸与人数	受給割合	
看護学部	1年次	0			32	56	20	20	16				0	0	1	0					158	89	56.3%
	2年次	2	0		43	70	29	28	13	0			1	0	1	0					159	117	73.6%
	3年次	0	0		35	68	26	31	11	1	1	1	0	0	4	0					153	110	71.9%
	4年次	0	0		67	61	23	24	14	0	1	0	0	1	2	0					154	132	85.7%
	計	2	0		177	255	98	103	54	1	2	1	1	1	8	0					624	448	71.8%
社会福祉学部	1年次	0			0	30	9	15	6				0	0			1		0		51	31	60.8%
	2年次	1	0		1	39	12	16	11	0			1	0			2	4	0		83	48	57.8%
	3年次	0	0		0	43	15	16	12	0			1	0	0		4	4	0		79	52	65.8%
	4年次	1	0		0	44	14	21	9	0			0	0	0		6	4	0		101	55	54.5%
	計	2	0		1	156	50	68	38	0			1	1	0		13	12	0		314	186	59.2%
リハビリテーション学部	1年次	1			1	36	14	16	6				0	0					0		89	38	42.7%
	2年次	0	0		1	46	12	22	12	0			0	1					0		103	48	46.6%
	3年次	0	0		3	35	16	15	4	0			0	0					0		105	38	36.2%
	4年次	0	0		1	59	22	25	12	0			0	0					1		109	61	56.0%
	計	1	0		6	176	64	78	34	0			0	1					1		406	185	45.6%
国際教育学部	1年次	0				16	7	7	2				0	0				4	0		52	20	38.5%
	計	0	0			16	7	7	2	0			0	0				4	0		52	20	38.5%
学部計		5	0		184	603	219	256	128	1	2	2	2	2	8	0	13	16	1		1,396	839	60.1%
助産学専攻科		0			3	1	0	1							0	0					17	4	23.5%
大学院 博士前期課程	1年次					1	0	1													16	1	6.3%
	2年次			3		1	1	0													27	4	14.8%
	計			3		2	1	1													43	5	11.6%
大学院 博士後期課程	1年次					1	1	0													6	1	16.7%
	2年次			0		0	0	0													3	0	0.0%
	3年次			0		1	1	0													34	1	2.9%
	計			0		2	2	0													43	2	4.7%
大学院計				3		4	3	1													86	7	8.1%
大学全体		5	0	3	187	608	222	258	128	1	2	2	2	2	8	0	13	16	1		1,499	850	56.7%

は、対象外

※受給割合は、学生数に対する受給者の延べ人数の割合を示す

※受給割合は、2024年3月時点データ ※聖隷病院就職内定者の奨学金受給者を含む

◆ 2023 年度奨学金受給状況<<専門学校>>

所属	学年	菅野・太田・長谷川奨学会	大学同窓会・後援会奨学金	日本学生支援機構奨学金				K・M・奨学金	浜松市奨学金	静岡県介護福祉士修学資金	聖隷福祉事業団奨学金	クリストファー介護福祉士奨学金	天竜厚生会介護福祉士奨学金	ニッセイ聖隷健康福祉財団奨学金	合計		
				合計	第一種	第二種	給付								在学生数	貸与人数	受給割合
介護福祉専門学校	1年次	0		3	1	1	1		0	3	7	2	0	0	20	15	75.0%
	2年次	0	0	3	0	1	2	0	0	3	4	5	0	0	20	15	75.0%
	合計	0	0	6	1	2	3	0	0	6	11	7	0	0	40	30	75.0%

は、対象外

※受給割合は、学生数に対する受給者の延べ人数の割合を示す

※受給割合は、2024年3月時点データ ※聖隷病院就職内定者の奨学金受給者を含む

◆ グローバル教育推進

2023 年度の本学の交流協定校は以下の 10 校です。2023 年 9 月にはシンガポール工科大学と交流協定の更新を行いました。

	国・地域	交流協定校名	締結日
1	中国	陸軍軍医大学 (Army Medical University)	2004 年 9 月 21 日
2	シンガポール	ナンヤン理工学院 (Nanyang Polytechnic)	2006 年 4 月 25 日
3	アメリカ	サミュエルメリット大学 (Samuel Merritt University)	2013 年 11 月 5 日
4	シンガポール	シンガポール工科大学 (Singapore Institute of Technology)	2017 年 9 月 26 日
5	オーストラリア	イーデス・コーワン大学 (Edith Cowan University)	2018 年 1 月 17 日
6	アメリカ	シアトルパシフィック大学 (Seattle Pacific University)	2019 年 3 月 14 日
7	アメリカ	ハワイ大学マノア校 (University of Hawaii at Manoa)	2019 年 5 月 2 日
8	中国	中山大学附属第一病院 (First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University)	2019 年 9 月 23 日
9	フィリピン	マリアノ・マルコス州立大学 (Mariano Marcos State University)	2021 年 5 月 27 日
10	タイ	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2022 年 11 月 1 日

2023年度は春セメスターに2つ、秋セメスターに4つの学生派遣プログラムを実施しました。また、春セメスターに2つの学生受け入れプログラムを対面で実施し、秋セメスターに1つのバーチャルプログラムを実施しました。

2024年2月19日・20日には本学大学院国際研究委員会主催の聖隷国際研究コンファレンス2024（SIRC2024）を開催し、海外・国内から口頭発表55演題（うち学内5演題）、ポスター発表17演題（うち学内9演題）の発表がありました。本コンファレンスは6回目となります。また、“Student Work Showcase and Cultural Exchange”をテーマとした学生セッションを行いました。本学より2グループ、交流協定校より3グループが参加し、学修活動や文化の紹介を通して交流を深めました。

学術交流の一環として中山大学附属第一病院との合同オンラインセミナーを全3回開催し、本学教員・大学院生・学部生を含め延べ150名が受講しました。2023年度で4回目となります。

【学生派遣】

	プログラム	期間	対象	受入機関・内容	参加学生
国際専門研修	2023年度シンガポールリハビリテーション研修	9/10～ 9/17 8日間	理学療法学科 作業療法学科 2～4年次生	シンガポール工科大学 講義・演習参加、学生交流、保健医療福祉施設の見学等	PT2年10名 OT3年1名 OT2年5名 計16名
	2023年度シンガポール言語聴覚学研修	3/12～ 3/20 9日間	言語聴覚学科 1～3年次生	シンガポール工科大学 講義・演習参加、学生交流、保健医療福祉施設の見学等	ST2年1名 計1名
	2023年度アメリカ看護研修	3/17～ 3/27 11日間	看護学部 2～3年次生	サミュエルメリット大学 講義・シミュレーション演習参加、学生交流、保健医療福祉施設の見学等	看護3年4名 2年6名 計10名
国際実習	2023年度国際教育実習	9/2～ 9/16 15日間	こども教育福祉学科 2～4年次生	インマヌエルカレッジ 見学・観察実習、参加実習、講義やディスカッション、振り返り、文化体験等	こども2年1名 3年1名 4年2名 計4名
	2023年度国際理学療法実習	2/17～ 3/3 16日間	理学療法学科 3年次生 ※国際リハビリテーションコース必須科目	マリアノ・マルコス州立大学 講義、臨床実習、学生交流、文化体験等	PT3年5名 計5名 ※うち国際リハビリテーションコース学生3名
	2023年度国際言語聴覚療法実習	3/12～ 3/20 9日間	言語聴覚学科 3年次生 ※国際リハビリテーションコース必須科目	シンガポール工科大学 講義・演習、学生交流、保健医療福祉施設の見学等	ST3年3名 計3名 ※うち国際リハビリテーションコース学生1名

【学生受入】

プログラム		期間	対象	研修先	参加者
研修	Study Visit from Samuel Merritt University (USA)	6/19 ～6/26 8日間	サミュエルメリット大学 看護学部生	聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院、訪問看護ステーション（高丘、細江、三方原、住吉、北斗わかば）	学生 10 名 教員 3 名 計 13 名
	Study Visit from Singapore Institute of Technology	7/10～ 7/14 5日間	シンガポール工科大学 理学療法学科性 作業療法学科性	聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院、聖隷デイサービスセンター 三方原、三方原ベテルホーム	PT6 名 OT7 名 教員 1 名 計 14 名

【バーチャルプログラム】

プログラム		期間	対象	内容	参加学生
ナンヤン理工学院 (NYP) に向けたバーチャル研修		3/12・ 3/13 2日間	NYP ソーシャルサイエンス学部 看護学科・社会福祉学科学学生	講義、学生交流	NYP 看護 20 名 NYP 社会福祉 10 名 本学看護 5 名 計 35 名

聖隷クリストファー中・高等学校

1. 2023 年度の重点取組目標の振り返り

《中高一貫コース》

本校の教育目標を具現化する柱として、以下のア～クを掲げています。

- ア 学校経営の安定化を図り、健全な学校経営を維持することで、充実した教育を提供する。
- イ 教職員の資質能力の向上および業務の効率化と多忙化の解消を図る。
- ウ 基本的な生活習慣を確立させ、学校の教育活動全体の活性化を図る。
- エ 基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- オ 建学の精神を体得し、豊かな人間性や社会性を育成する。
- カ 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。
- キ 教育活動全体を通じたキャリア教育を推進する。
- ク 信頼される学校となるために、本校の情報を積極的に発信する。

このうち 2023 年は、イとエを重点取組目標として掲げました。

◆重点取組目標 1 イ. 教職員の資質向上および業務の効率化と多忙化の解消を図る。

	目標の達成方法（取組手段）	評価	成果および評価
①	23年度、2学期制を導入し、日課表も改編しました。これによって時間の有効利用をはかり、生徒の学力向上に向け、教職員が積極・意欲的に、授業の改善等に取り組めます。そのために、教員相互の授業参観を義務付ける研修案を立てました。	A	全教員が、他教科の授業を見学・評価し合う取り組みが100%実施でき、相互の現状理解が深まりました。公開授業やその後の教科会によって、教員間の意見交換が行われ、授業改善につながる意識改革が深まりました。
②	校内外の研修を積極的に企画し、参加することで、主体的で向上心ある教員組織づくりを目指し、教員の資質の向上を図ります。	A	研修担当によって「全員参加授業研究会」（年2回）や「多様な形式の授業参観」「自主的に受講するウェブによる研修」などが企画され、前向きに取り組む教員が増えています。
③	管理職の下、入試問題の作成方法の見直しと期日の厳格化、進捗状況、問題の検証等のチェック機能を構築化します。	B	「入試問題作成経過報告書」を作成し、チェック項目や問題作成の進捗状況を管理するシステムを整えました。その運用については、今ひとつでしたが、作成過程での点検が慎重に実施され、大きなミスは見られませんでした。
④	日課の変更に伴い、教職員の多忙化の解消を図り、意欲を持って生徒に向き合う時間を確保する。	D	授業時間数や日課の変更、土曜授業の廃止によって、長短両方の影響が見られました。業務改善や軽減について、ゆとりをもって取り組めたと回答する教員は52%でした。

◆重点取組目標 2 エ. 基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

	目標の達成方法（取組手段）	評価	成果および評価
①	全生徒がタブレットを持つ初年度となりました。ICT機器を活用した新たな学習指導法や機器の活用法について、今後一層の研究と実践を重ねていきます。 AL型授業の研究と実践も進めていきます。	B	タブレットを持って「興味・関心や意欲が高まった生徒」が93%、「授業の内容がよく分かった生徒」が87%でした。数字的には目標を達成したかにみえますが、学業成績の向上に直接結びつく段階には、まだ至っていません。
②	授業の担当者が複数の場合にも、テスト等による評価の差が生じないような連携をします。また、テストの結果によって、授業内容の検証・振り返り・改善ができるようなテストを作成・実施します。	B	○成績処理の方法を図解入りで分かり易くしました。 ○観点別評価については、感覚や点数だけに頼らず、共通の振り返りシート等を実施し、根拠のある平等な評価が行われるようにしました。観点別評価が授業改善につながるような工夫を心掛けていきたいです。 ○複数の担当者の場合、評価作業の書式やガイドラインを共有する工夫をしました。

③	進路目標の実現に向けては、一般選抜(共通テストを含む)、学校推薦型選抜、総合型選抜等、様々な方式を生徒の興味関心や能力適正に応じてすすめ、最適な進路指導を行います。	B	本校の進路指導について、「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と感じられる生徒は88%に上りました。年内入試が一般選抜よりも需要が高まる中、大学や受験ごとの傾向を詳細に把握し、生徒に提供する必要があります。また、クラスによって情報差が生じないように工夫をしています。
---	--	---	---

《グローバルスクールコース》

◆重点取組目標1 特徴ある教育の充実を図る。

	目標の達成方法(取組手段)	成果と評価
①	スタッフミーティングの中で建学の精神を理解・実践するための研修を継続し、本校の教育理念に沿った教育活動の充実につなげる。	研修を継続し、60%の教員が「理解が深まった」と回答し、40%の教員が「理解がやや深まった」と回答しました。建学の精神の理解は徐々に進み、教育活動に活かされてきています。
②	生徒が体験活動の中で建学の精神を育む機会を設ける。	世界の貧困地域の援助に関する学習の中で募金活動を行うなど建学の精神を育む活動を行いました。建学の精神への理解が深まったと答えた生徒は65.2%でした。
③	生徒が英語を用いる活動を増やし、イマージョンプログラムを向上させる。	英語ネイティブスピーカーの教員が主導する活動が教室内で増え、英語イマージョンプログラムの向上が見られました。「英語イマージョンにより英語力が向上した」と答えた生徒86.9%でした。
④	学習スキルを体系化したコース独自の教育を実践し、DPに繋がる探究プログラムを展開する。	GSC独自の学習スキルの総体系(GSC Skills)を授業内で明示する機会が増えてきました。そのことにより、78.2%の生徒がGSC Skillsを意識して学習に取り組むことができていると答えました。

◆重点取組目標2 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。

	目標の達成方法(取組手段)	成果と評価
①	生徒・保護者とコミュニケーションを十分に図り、問題の早期発見に努める。	「問題の早期発見ができた」と回答した教員は20%、「ややできた」と回答した教員は60%でした。生徒支援につながる生徒・保護者とのコミュニケーションを今後さらに行っていく必要があります。
②	教育相談体制を充実させ、生徒理解と個に応じた指導・支援を行う。	60%の教員がプラスの回答をしている一方で、40%の教員がマイナスの回答でした。カウンセラーとの連携の課題を丁寧に分析し改善を図る必要があります。
③	早期に対策会議を開き、組織的に問題解決にあたる。	80%の教員が「教員間で連携し問題を解決できた」と回答し、20%の教員が「ややできた」と回答しました。言語・文化の壁を超えた教員間の連携がかなりできてきています。

④	発達支援に関する教員研修を年2回実施する。	20%の教員が、研修が「役に立った」と回答し、80%の教員が「やや役に立った」と回答しました。生徒の特性を理解し、適切な指導につなげていくための研修を今後も継続する必要があります。
---	-----------------------	--

2. 2024年度の重点取組目標と展望

本校は『自分のようにあなたの隣人を愛しなさい』の建学の精神のもと、キリスト教主義に基づく教育を行っている学校です。

「神様からいただいた命を、誰かのために役立てる」という奉仕の心がキリスト教育の根幹となります。したがって、他者への思いやりや規律を重んじた教育を行い、社会に出てからも、人のために役立つ仕事をする事ができる人材を育てることを目標にしています。

《中高一貫コース》

上の目標を具現化するため、前項にあげた「具現化する柱ア～ク」のうち、2024年度もイとエを重点取組目標として掲げます。

◆重点取組目標 1 イ. 教職員の資質向上および業務の効率化と多忙化の解消を図る。

	目標の達成方法(取組手段)	成果目標
①	授業公開週間を設け、授業指導の工夫・改善を図ります。また、ICT機器等の活用などに関する更なる研修に前向き・意欲的に取り組みます。	6月と11月に、授業公開週間を設け、各教科全員参加授業研究会を2回実施します。また、全教員が他教科の授業を2回以上参観します。研修部がICT委員会と連携し、研究授業を行います。
②	管理職の下、学力検査と追検査問題の作成と期日の厳格化を図ります。特に、進捗状況や問題内容の検証等について、チェック機能を構築化します。	担当教科全員と担当教科以外の者が関わり、チェック項目に従い、ミスなく作成できているかを、確実に検証します。
③	教職員の多忙化の解消を図ります。意欲を持って生徒に向き合う時間を確保します。	各学年・分掌で業務改善・軽減に「取り組むことができた」と答える教員60%以上を目指します。「生徒と向き合う時間が確保できた」と答える教員80%以上を目指します。

◆重点取組目標 2 エ. 基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する

	目標の達成方法(取組手段)	成果目標
①	ICT機器等を活用した新たな学習指導法やICT機器の活用法等についての研究と実践を推進します。それらが学業成績とどのようなつながりを持つかを検討します。AL型授業の研究と実践を進めます。	・「興味・関心や意欲を高める授業がタブレットを用いて行われている」と答える生徒が80%以上となるよう目指します。 ・「授業の内容がよく分かる」と答える生徒が80%以上となるよう目指します。

②	定期テストについては、授業担当者によって、評価に差が生じないような方法の確立を目指します。 また、模試の結果をもとに、教員自身が自己の指導法の検証・振り返り・改善をができるよう、研究します。	教科会等を利用して、授業内容、進度、レベル等の教員間の差違について、生徒・保護者からの不満の声がなくなるよう、授業改善に取り組みます。 「続けて授業を受けたい」と答える生徒が 70%以上となるよう目指します。
③	進路目標の実現に向け、一般選抜(共通テストを含む)、学校推薦型選抜、総合型選抜等、生徒の興味関心や能力適正に基づいて進路選択ができるような方策を工夫し、最適な進路指導を行います。	・進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てます。 ・生徒に対して、進路選択に関する情報提供が適切に行われるよう、工夫します。 ・生徒の満足度目標 90%以上

《グローバルスクールコース》

◆重点取組目標1 特徴ある教育の充実を図ります。

	達成方法(取組手段)	成果目標
①	教員が建学の精神を理解・実践するための研修を教員ミーティングの中で継続的に行う。	「建学の精神の理解が深まった」と答える教員 80%以上を目指します。
②	生徒が体験活動の中で建学の精神を育む機会を設ける。	「建学の精神の理解が深まった」と答える生徒 80%以上を目指します。
③	生徒が英語を用いる機会・行事・活動を増やす。	「グローバルスクールコースの英語イマージョンにより英語力がさらに向上した」と答える生徒 80%以上を目指します。
④	DP に繋がる学習スキルを体系化した教育を実践する。	「学習スキルを意識して学習に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上を目指します。

◆重点取組目標2 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成します。

	達成方法(取組手段)	成果目標
①	生徒・保護者とコミュニケーションを十分に図り、問題の早期発見に努める。	「生徒の問題を早期に発見し支援することができた」と答える教員 80%以上を目指します。
②	教育相談体制を充実させ、生徒理解と個に応じた指導・支援を行う。	「スクールカウンセラーと連携し個に応じた指導・支援ができた」と答える教員 80%以上を目指します。
③	教員間で情報共有し、適切に個別の支援を行う。	「教員間で連携し問題を解決できた」と答える教員 100%を目指します。
④	発達支援に関する教員研修を実施する。	「発達支援に関する研修が生徒支援に役立った」と答える教員 80%以上を目指します。

3. 2023 年度実績

1) 生徒募集の推移

(単位：人)

		入学 定員	2024 年度入学者 (2023 年度募集)		2023 年度入学者 (2022 年度募集)		2022 年度入学者 (2021 年度募集)	
			志願者数	入学者数	志願者数	志願者数	志願者数	入学者数
高校		294	1,105	294	1,176	333	1,173	360
中学	中高一貫コース	70	27	23	48	40	41	38
	グローバル スクールコース		25	24	14	13	15	15
	計		62	47	62	53	56	53

※高校の入学者数には中学校からの内進生を、中学グローバルスクールコースの入学者数には、小学校からの内進生を含みます。

2) 卒業生の進路状況

(単位：人)

	大学	短期 大学	専門 学校	受験 準備	就職	留学	その他	合計
男子	127	1	19	2	6	0	2	157
女子	123	13	55	3	14	0	3	211
合計	250	14	74	5	20	0	5	368
比率	67.9%	3.8%	20.1%	1.4%	5.4%	0.0%	1.4%	100.0%

※その他には留学準備 2 名を含みます。

3) 大学合格実績

《国公立大学 21 名》

静岡県立大(薬 1、食品栄養科学 1、国際関係 2)4 名、信州大(人文 1、看護 1)2 名、静岡大(人文社会科学 1、情報 1)2 名、浜松医科大(看護)4 名、静岡文化芸術大(文化政策)1 名、三重大(教育)1 名、都留文科大(文 1、教養 1)2 名、前橋工科大(工)1 名、静岡県立農林環境専門職大(生産環境経営)1 名、北見工業大(工)1 名、県立広島大(保健福祉/作業療法)1 名、山梨県立大(国際政策)1 名

《私立大学 452 名》

聖隷クリストファー大学 91 名(看護 42、理学療法 10、作業療法 11、言語聴覚 7、社会福祉 13、国際教育 8、うち入学者 55 名)、早稲田大(スポーツ科学)1 名、上智大(総合人間科学/看護)1 名、国際基督教大(教養)1 名、法政大(文 3、法 3、社会 2)8 名、関西大(社会 3、政策創造 1)4 名、関西学院大(人間福祉 1、経済 1)2 名、立命館大(文 2、法 1)3 名、立命館アジア太平洋大(アジア太平洋 2、サステナビリティ観光 2)4 名、明治学院大(社会 1、心理 1、法 1)3 名、南山大(人文)2 名、同志社女子大(表象文化)1 名、獨協大(経済)1 名、日本大(国際関係 1、経済 1、生物資源 1、芸術 1、スポーツ科学 1)5 名、駒澤大(仏教)1 名、専修大(文)2 名、大東文化大(スポーツ・健康科学)1 名、東海大(海洋 1、体育)2 名、亜細亜大(経営)1 名、帝京大(経済 2、医療技術/視能矯正 1)3 名、近畿大(総合社会 1、工 4、生物理工 6)11 名、京都産業大(文 2、法 5)7 名、龍谷大(文 8、社会 2)10 名、愛知大(文 2、地域政策 2、国際コミュニケーション 1、現代中国 1)6 名、中京大(文 2、現代社会 1、国際 1、経済 1、経営 3、スポーツ科学 1)9 名、名城大(法 1、経済 3、経営 2、理工 2)8 名、国士舘大(21 世紀アジア 1、体育 1)2 名、武蔵大(経済)1 名、神奈川大(経済 1、人間科学 1)2 名、順天堂大(医療看護 1、スポーツ健康科学)2 名、愛知学院大(歯 2、薬 1、文 1、法 1、総合政策 2、経済 1、健康科学 3)11 名、中部大(現

代教育 3、人文 3、国際関係 2、経営情報 4、工 1、理工 1、応用生物 1、生命健康科学 2) 17 名、日本福祉(教育・心理) 1 名、常葉大(教育 4、外国語 1、法 1、経営 10、理学療法 3、作業療法 1、看護 1、健康プロデュース 15、社会環境 4) 40 名、岐阜医療科学大(放射線技術) 1 名、鈴鹿医療科学大(放射線技術) 1 名、豊橋創造大(看護 5、理学療法 2) 7 名、人間環境大(心理 1、総合心理 2、看護 1 環境科学 4) 8 名、浜松学院大(現代コミュニケーション) 2 名、他

4) 就職実績

《就職内定者 20 名》

航空自衛隊(一般曹候補生) 1 名、静岡県警 1 名、ヤマハ発動機 1 名、スズキ 2 名、デンソー 1 名、プライムアース EV エナジー 1 名、朝日電装 1 名、A. I. S 1 名、神沢歯科医院 1 名、ジー・ディー・エス 1 名、スズキビジネス 1 名、竹内内科眼科クリニック 1 名、西山病院 1 名、ヤタロー 1 名、他

5) 国際交流(高等学校)

派遣 / 受入	短期プログラム	長期プログラム
本校語学研修プログラム (3 か月)	5 名(アメリカ 1、カナダ 2、 オーストラリア 2)	
本校から私費留学	オーストラリアへ 1 名	なし
県教委主催海外体験促進事業 (語学研修)	なし	
受入れ留学生	なし	2022 年 3 月～2024 年 3 月 中国から 1 名 2023 年 8 月～2026 年 3 月 中国から 1 名

※中学は実績なし

6) 部活動の主な実績

部活動名	2023 年度 主な実績
男子 バレーボール	第 71 回静岡県高校総合体育大会バレーボール競技静岡県大会 優勝 第 70 回東海高等学校総合体育大会(インターハイ東海大会)優勝 全国総合体育大会バレーボール競技 ベスト 16 静岡県西部高等学校バレーボール選手権大会 優勝 第 76 回全日本バレーボール高等学校選手権大会 静岡県予選大会 準優勝 第 42 回静岡県高等学校バレーボール選手権大会 4 位
男子 サッカー	第 70 回静岡県高等学校総合体育大会サッカー競技 決勝トーナメント出場 第 102 回高校サッカー選手権静岡県大会 ベスト 16 令和 5 年度静岡県高校新人体育大会サッカー競技静岡県大会ベスト 16
野 球 部	第 105 回全国高等学校野球選手権 静岡大会 ベスト 8 第 76 回秋季東海地区高等学校野球静岡県大会 第 4 位 第 7 回浜松市内高校野球大会 優勝 第 6 回チャンピオンシップ大会 優勝
女子 ソフトボール部	第 71 回静岡県高等学校総合体育大会ソフトボール競技 準優勝 第 57 回静岡県高等学校新人ソフトボール大会 第 3 位 第 69 回全国私立高等学校女子ソフトボール選抜大会 ベスト 8

女子 バレーボール	第 71 回静岡県高校総合体育大会バレーボール競技静岡県大会 第 3 位 第 76 回全日本バレーボール高等学校選手権大会静岡県予選大会 第 3 位 令和5年度静岡県高等学校バレーボール選手権大会ベスト8 令和5年度第 29 回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会 出場
少林寺拳法部	令和5年度静岡県高等学校新人体育大会少林寺拳法競技 男子団体演武1位、男子自由単独演武 1 位 男子規定組演武 2 位 男子自由組演武 1 位 女子規定単独演武 1 位、女子自由単独演武 1 位、女子自由組演武 1 位 第 27 回全国高等学校少林寺拳法選抜大会出場
放送部	第 70 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト全国大会 朗読部門:神戸希和さん入選(全国 5056 人中 上位 60 人) テレビドキュメント部門:「全力疾走☆510123」制作奨励賞 (全国 456 作品中 上位 40 作品) 創作テレビドラマ部門:「Andante」製作奨励賞 (全国 354 作品中 上位 20 作品) 令和 5 年度静岡県高等学校総合文化祭放送部門兼第 44 回高等学校放送新人コンクール県大会 ビデオメッセージ部門 準優勝

聖隷クリストファー小学校

1. 児童募集の推移

入学定員* 60 人	志願者数	入学者数
2024 年度入学者 (2023 年度募集)	36	31
2023 年度入学者 (2022 年度募集)	55	41
2022 年度入学者 (2021 年度募集)	52	45
2021 年度入学者 (2020 年度募集)	96	86
2020 年度入学者 (2019 年度募集)	102	92

*2020 年度入学者、2021 年度入学者は 1 年生 60 人、3 年生 30 人、5 年生 30 人を募集

*2021 年度入学者以降は 1 年生 60 人を募集

2. 教育の特色

本校の学びの根幹には、「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」というキリスト教の教えである「隣人愛」の精神があります。変化の激しい時代だからこそ、どんな時代になっても決して変わる事のない大切なことを土台として、すべての学びを展開しています。

◆英語イマージョン教育 English Immersion Education

本校の英語イマージョン教育は、母語である日本語力を大切にします。英語での授業は、多国籍の外国人による多様な見方に触れながら探究的に展開されます。2 つの言語を知り、違う

視点を持つことで、世界を、日本を、自分を深く知ることができます。もちろん、ツールとしての英語を身につけて、世界のどこにいても、自分で考え、表現できる力も養っていきます。児童は、外国人教員から英語で学ぶという環境で、日常会話レベルの英語から、学習英語レベルへと自然に英語力を身につけていきます。

◆探究型学習 Inquiry-based Learning

児童自らが課題を発見・設定し、その解決に向けて情報を収集・整理・分析し、友人や先生との意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動です。探究型の学習では、児童の思考力や判断力、表現力などの育成を目的としており、教科書の知識を詰め込む学習ではなく、体験活動を中心にすえ、主体的に学び問題を解決することで、次の学習に役立つ本当に理解された知識を積み重ねていきます。

3. 国際バカロレア初等教育プログラム

International Baccalaureate Primary Years Programme

2024年2月、聖隷クリストファー小学校とクリストファーこども園は、国際バカロレア機構（IB: International Baccalaureate）が提供する国際的な教育プログラムのうち、3～12歳児が対象となる「プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）」の国際バカロレア（IB）ワールドスクールに認定されました。

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

◆ 年間行事

日付	内容
4月 1日(土)	保育開始
7日(金)	1学期始園日
8日(土)	入園式(61名入園)
19日(水)	イースター礼拝
22日(土)	保護者会総会、子育て講演会、クラス懇談会
27日(木)	視力検査(5歳児)
5月 2日(火)	園庭プロジェクト
10日(水)	母の日礼拝
13日(土)	入園説明会①(次年度入園希望3歳児対象)
18日(木)	ジョン・カミツカ氏 ピアノコンサート(5歳児)
16日(火)	園外保育(5歳児) 里山体験
17日(水)	
25日(木)	健康診断①
30日(火)	オープン保育デー(4歳児)
31日(水)	
6月 1日(木)	オープン保育デー(5歳児)、視力検査(4歳児)
2日(金)	
9日(金)	尿検査
13日(火)	プール開き
14日(水)	花の日礼拝
15日(木)	花の日訪問
20日(火)	入園説明会②(次年度入園希望3歳児対象)
27日(火)	オープン保育デー(3歳児)
28日(水)	
29日(木)	歯科検診
7月 7日(金)	サマーフェスタ(0-満3歳児)
8日(土)	サマーフェスタ(3-5歳児)
18日(火)	月礼拝
19日(水)	マリアノマルコス州立大学代表者による大学訪問・こども園見学
20日(木)	1学期終園日
28日(金)	園庭プロジェクト
31日(月)	小学1年生同窓会
8月 29日(火)	夏期保育(1号認定児)
30日(水)	
31日(木)	2学期始園日、プール納め
9月 1日(金)	防災引渡訓練
7日(木)	月礼拝
12日(火)	入園説明会(次年度入園希望3号認定児対象)
16日(土)	自然体験企画「魚とり体験」
10月 6日(金)	プレイデー(運動会)3-5歳児 於:サーラグリーンアリーナ
11日(水)	月礼拝
12日(水)	健康診断①
17日(火)	園外保育(5歳児) 里山体験
18日(水)	遠足(3歳児・動物園)
20日(金)	園外保育(5歳児) 里山体験
21日(土)	プレイデー(運動会、0-満3歳児)於:園庭
24日(火)	遠足(4歳児・動物園)
30日(月)	人形劇(むすび座)[保護者会主催]

日付	内容
11月 8日(水)	収穫感謝礼拝、アジア学院交流会(5歳)
9日(木)	収穫感謝訪問
11日(土)	幼児祝福式(3.5歳児希望者) 於:遠州栄光教会
14日(火)	自然体験企画「すいとん作り」(4歳児)
15日(水)	お魚さばき食育講座(4・5歳児)
16日(木)	国際バカロレア初等教育プログラム 認定訪問(バーチャル)
17日(金)	
22日(水)	自然体験企画「かんぴょう巻作り」(3歳児)
28日(火)	アフリカ・中東より幼児教育関係者来園・交流
29日(水)	オープン保育デー(3歳児)
30日(木)	
12月 9日(土)	クリスマスのおどい(0-満3歳児)
14日(木)	学園クリスマスツリー点火祭
16日(土)	クリスマス礼拝(3-5歳児)
19日(火)	月礼拝
21日(木)	2学期終園日
25日(月)	クリスマスのおどい(入園予定者)
1月 9日(火)	3学期始園日
10日(水)	おせち料理
11日(木)	園外保育(5歳児) 里山体験
12日(金)	
16日(火)	月礼拝
17日(水)	自然体験企画「五平餅作り」(5歳児)
20日(土)	親子運動遊び(ゲンキッズプラス)、 どうぶつしょうぎ[保護者会主催]
23日(火)	自然体験企画「味噌作り」(4歳児)
31日(水)	自然体験企画「ポップコーン作り」(3歳児)
2月 2日(金)	はごろも「夢」講演会 伊勢ヶ濱部屋 翠富士関 来園・交流
6日(火)	オープン保育デー(5歳児)
7日(水)	
9日(金)	入園説明会(次年度入園希望満3歳児対象)
10日(土)	園庭プロジェクト
13日(火)	自然体験企画「竹巻きパン作り」(5歳児)
15日(木)	月礼拝
16日(金)	交通安全教室(4,5歳児)
20日(火)	オープン保育デー(3歳児)
21日(水)	オープン保育デー(3歳児)、 クリストファー小学校との幼小連携プログラム(5歳児)
27日(火)	オープン保育デー(4歳児)
28日(水)	
3月 1日(金)	卒園お別れパーティー
7日(木)	月礼拝
8日(金)	卒園遠足(5歳児) 豊橋総合動植物公園
13日(水)	卒園礼拝(5歳)
14日(木)	3学期終園日
16日(土)	卒園式(53名卒園)
27日(水)	IB PYP職員研修(こども園・小学校合同)
30日(土)	年度末職員研修

※毎週1回 親子ひろば 実施(9月~毎週2回実施)

毎週1回 国際バカロレア教育推進こども園学年ミーティング 実施

学校法人 聖隷学園 中長期財務計画

中長期財務計画 学園全体【2022年度決算-2029年度】								
◆事業活動収支計算書			※新校舎利用開始 (単位:千円)					
主な事業計画(要因)	グローバルスクール生 中学進学	国際教育 学部開設		小学校完成年度 グローバルスクール生 高校進学	国際教育学部 完成年度 GS生60名中学進学			GS生60名 高校進学
項目	2022年度 決算	2023年度 決算	2024年度 中長期	2025年度 中長期	2026年度 中長期	2027年度 中長期	2028年度 中長期	2029年度 中長期
1 学生生徒等納付金	2,901,117	2,923,018	2,925,378	3,019,102	3,133,125	3,236,021	3,295,625	3,397,915
2 事業活動収入 ①	4,216,658	4,213,504	3,986,653	4,106,740	4,255,049	4,393,083	4,474,756	4,602,130
3 人件費 ④	2,544,088	2,659,617	2,749,877	2,807,842	2,897,313	2,942,443	2,955,068	3,079,701
4 教育研究経費	965,449	967,978	991,091	1,034,344	※1 1,114,302	1,092,312	1,094,950	1,095,613
5 管理経費	353,635	343,191	352,154	351,233	361,274	374,622	345,680	354,961
6 その他支出(借入金利息等)	27,281	24,776	20,204	19,336	17,721	15,316	12,875	10,555
7 事業活動支出②	3,890,453	3,995,562	4,113,326	4,212,755	4,390,610	4,424,692	4,408,563	4,540,830
8 事業活動収支差額③(①-②)	326,205	217,942	△ 126,673	△ 106,015	△ 135,561	△ 31,610	66,192	61,300
9 事業活動収支差額比率③/① (事業活動収支差額/事業活動収入)	7.7%	5.2%	△ 3.2%	△ 2.6%	△ 3.2%	△ 0.7%	1.5%	1.3%
10 人件費比率④/① (事業活動収支差額/事業活動収入)	60.3%	63.1%	69.0%	68.4%	68.1%	67.0%	66.0%	66.9%
※1…新校舎減価償却費増								
◆資金収支計算書			借入金3.39億円済		借入金2.6億円(法人1.6億・園舎増築用1億)予定			
主な事業計画(要因)	土地購入 グラウンド造成 駐車場造成	国際教育 学部開設	GS校舎建築 長期借入金 土地購入 駐車場造成	GS校舎建築 ことも園舎増築	GS60名中学進学 GS校舎利用開始 ことも園舎増築	駐車場造成		GS生60名 高校進学
項目	2022年度 決算	2023年度 決算	2024年度 中長期	2025年度 中長期	2026年度 中長期	2027年度 中長期	2028年度 中長期	2029年度 中長期
11 資金収支 収入の部 ⑤	4,609,818	4,196,716	4,178,213	4,237,146	4,279,972	4,405,161	4,515,506	4,638,480
12 借入金返済・返済利息	159,689	179,889	177,464	176,596	184,981	202,576	195,755	185,935
13 施設設備費(固定資産)※新規以外	189,980	169,309	133,068	84,746	93,395	85,864	86,074	95,059
14 新規事業(校舎建築・園舎増築・運動場整備等)	552,101	31,465	738,915	1,459,509	90,000	28,000	100,000	0
15 資金収支 支出の部 ⑥	4,497,110	4,017,548	4,865,743	5,581,208	4,349,092	4,345,585	4,409,532	4,449,856
16 資金収支差額 ⑦(⑤-⑥)	112,708	179,168	△ 687,530	△ 1,344,062	△ 69,120	59,576	105,973	188,624
17 次年度繰越支払資金⑧	4,855,991	5,035,159	4,347,629	3,003,567	2,934,446	2,994,022	3,099,995	3,288,620

中長期財務計画においては、教育研究保育環境の充実・整備を図りつつ、中長期経営計画実現に向け財源を継続して確保する必要があります。

財務計画は主な要点をベースとし、財務構造を人件費 60～65%、教育研究経費 20～25%、管理経費 5～7%、収支差額 3～7%を目安に策定しております。また、施設設備においても、大学1号館は建築 25 年以上、2・3 号館と中高校舎は 15 年以上となり、計画的に修繕を行う計画をしており、エアコン取替工事や校舎内蛍光灯のLED化を計画し、毎年実行しております。

2024 年度以降、事業活動収支差額、資金収支差額ともにマイナスと見込んでいる要因は、中・高等学校グローバルスクール用の校舎建築(2023～2025 年度)や教員採用等を計画しているためです。

校舎建築は、2020 年度に開設した聖隷クリストファー小学校の児童が、中学、高校と進学時に使用する校舎であり、既存の中・高等学校とは別校舎とするためです。この校舎の減価償却費を含めたこと、完成年度までは、生徒数が少人数でも設置に必要な教員数を配置する計画としているために収支差額がマイナスとなっています。

学園としては、大学の国際教育学部完成年度 2026 年度、さらに 2020 年度開設時に入学した小学生が高校を卒業する 2031 年度までを収支状況に最も注視すべき期間であると認識しています。

具体的な施策については、現在、2031 年度までの学園中長期財務計画を策定しており、毎年、各部門、置かれている状況、課題を正しく理解し、緊急性、必要性なども考慮し、見直しを行っております。

なお、未完成の学部、学校が学年進行に伴い、収支は改善していく見通しです。

事業の継続ならびに新規構想の推進には財政基盤の強化が必要であり、自主財源の確保は、入学入園者見込数を確実に確保していくこと、支出については、その 60%以上を占める人件費政策を行うことが必須となります。

(3) 施設等の状況 (2024年3月31日現在)

現有施設の状況

土地

所在地	面積等	取得価額	摘要
静岡県浜松市中央区三方原町 3453	41,813 m ²	434,456 千円	聖隷クリスファー大学キャンパス
	70,902 m ²	2,165,391 千円	聖隷クリスファー中高キャンパス
	501 m ²	57,133 千円	聖隷クリスファー小学校
静岡県浜松市中央区根洗町 1102-3 他	9,998 m ²	164,587 千円	学園グラウンド用地
静岡県浜松市中央区三方原町 2762 他	6,049 m ²	99,525 千円	クリスファーこども園(園舎・園庭)
合計	129,263 m ²	2,921,092 千円	

校舎等

所在地	施設等(建物名称)	面積等	取得価額	帳簿価額
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453	聖隷クリスファー大学(1号館)	9,068 m ²	2,358,973 千円	844,068 千円
	〃 (2号館)	4,026 m ²	736,185 千円	360,991 千円
	〃 (3号館)	4,727 m ²	938,615 千円	480,656 千円
	〃 (4号館)	1,199 m ²	232,454 千円	77,199 千円
	〃 (旧5号館旧棟)	2,623 m ²	305,909 千円	61,616 千円
	〃 (5号館)	5,134 m ²	948,838 千円	663,460 千円
	〃 (機械室)	11 m ²	1,124 千円	304 千円
	〃 (学生・同窓会館)	964 m ²	156,406 千円	39,371 千円
	〃 (キリスト教センター)	78 m ²	20,268 千円	6,403 千円
	〃 (第一体育館)	781 m ²	240,565 千円	103,984 千円
	〃 (第二体育館)	495 m ²	46,702 千円	14,006 千円
〃 (第一テニスクラブハウス)	35 m ²	10,754 千円	1,459 千円	
聖隷クリスファー大学 合計		29,141 m ²	5,996,793 千円	2,653,517 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453	専門学校棟	574 m ²	160,760 千円	87,172 千円
聖隷クリスファー大学介護福祉専門学校 合計		574 m ²	160,760 千円	87,172 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453 他	聖隷クリスファー中・高等学校(校舎)	9,332 m ²	1,750,242 千円	990,491 千円
	〃 (体育館)	4,369 m ²	796,377 千円	440,823 千円
	〃 (総合運動場クラブハウス)	176 m ²	34,297 千円	13,977 千円
	〃 (第二テニスクラブハウス)	106 m ²	17,379 千円	8,417 千円
	〃 (サッカー場クラブハウス)	193 m ²	44,737 千円	19,969 千円
	〃 (新ソフトボール場クラブハウス)	188 m ²	116,180 千円	112,580 千円
	〃 (野球部部室)	62 m ²	20,855 千円	8,428 千円
	〃 (ガス整圧室、ポンプ室)	15 m ²	29,800 千円	7,284 千円
〃 (ソフトボール場倉庫)	65 m ²	1,908 千円	434 千円	
聖隷クリスファー中・高等学校 合計		14,506 m ²	2,811,775 千円	1,602,403 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453	聖隷クリスファー小学校校舎	3,463 m ²	1,007,662 千円	878,911 千円
聖隷クリスファー小学校 合計		3,499 m ²	1,007,662 千円	878,911 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 2762	クリスファーこども園園舎	2,139 m ²	503,306 千円	313,393 千円
聖隷クリスファー大学附属クリスファーこども園 合計		2,139 m ²	503,306 千円	313,393 千円
総合計		49,823 m ²	10,480,296 千円	5,535,396 千円

3 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

貸借対照表は資産（土地や建物など）が何によってどのようなバランスで賄われているかを表し、財務の健全性を示したものです。

資産は、固定資産が対前年度比1億4,382万円減の103億7,698万円となり、流動資産は対前年度比2億309万円増の52億1,145万円となり、総資産額は対前年度比5,927万円増の155億8,843万円となりました。これらの主な要因は、有形固定資産の減少と流動資産の増加によるものです。

負債は、負債の部合計が前年度比1億5,868万円減少の38億2,886万円となりました。主な要因は借入金の返済進行によるものです。

校舎建設、土地購入などによる借入金のための負債の割合が高いですが、総資産の75.4%は自己資金で賄われていることにより、財務の安定性は十分な余力があることがわかります。

また、借入金は現状のキャッシュフローにおいて最短約2.7年での全額返済が可能であり、十分な返済能力を備えていると認識しております。

(単位:百万円)

資産の部合計	15,588	負債の部合計	3,829
(主な内容)		(主な内容)	
(現金預金	5,035)	(借入金	1,538)
(土地	2,921)	(前受金	1,501)
(建物	5,535)	自己資金	11,759

【有利子負債返済可能年数】

$$\frac{\text{借入金 } 1,538 \text{ 百万円}}{\text{学校運営にかかる } 560 \text{ 百万円 } \text{キャッシュフロー}} = 2.7 \text{ 年}$$

◎経年比較

(単位:千円)

	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末
固定資産	10,205,261	10,118,619	10,115,343	10,520,809	10,376,984
流動資産	4,260,622	4,683,921	4,959,069	5,008,354	5,211,446
資産の部合計	14,465,883	14,802,540	15,074,412	15,529,163	15,588,430
固定負債	2,134,312	2,009,884	1,908,511	2,070,535	1,923,025
流動負債	1,930,195	1,997,020	1,950,474	1,916,996	1,905,831
負債の部合計	4,064,507	4,006,904	3,858,985	3,987,531	3,828,856
基本金	15,488,669	15,893,807	16,290,555	16,844,508	17,210,780
繰越収支差額	△ 5,087,293	△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,876	△ 5,451,206
純資産の部合計	10,401,376	10,795,636	11,215,427	11,541,632	11,759,574
負債及び純資産の部合計	14,465,883	14,802,540	15,074,412	15,529,163	15,588,430

イ) 財務比率の経年比較

区 分			評 価	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	全国平均 2022年度	
貸借対照表 関係比率	1	固定資産 構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	70.5%	68.4%	67.1%	67.7%	66.6%	86.1%
	2	流動資産 構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	29.5%	31.6%	32.9%	32.3%	33.4%	13.9%
	3	固定負債 構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	▼	14.8%	13.6%	12.7%	13.3%	12.3%	6.5%
	4	流動負債 構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	▼	13.3%	13.5%	12.9%	12.3%	12.2%	5.3%
	5	運用資産 余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	0.63年	0.76年	0.82年	0.76年	0.83年	2.01年
	6	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	220.7%	234.5%	254.2%	261.3%	273.4%	263.2%
	7	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	28.1%	27.1%	25.6%	25.7%	24.6%	11.7%
	9	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	89.2%	90.5%	91.3%	90.6%	91.6%	97.2%
	10	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	△	278.0%	290.8%	310.2%	323.3%	335.5%	372.0%
	11	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	54.9%	57.2%	58.3%	57.5%	57.5%	78.2%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい -:どちらともいえない

※全国平均:2022(R4)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	2,612,964	2,713,748	2,855,963	2,901,118	2,923,018
手数料収入	60,231	60,149	58,929	59,359	52,407
寄付金収入	79,218	86,959	119,016	77,436	40,407
補助金収入	785,248	969,673	989,263	1,079,958	1,078,226
資産売却収入	20	0	11	0	693
付随事業・収益事業収入	17,490	22,792	25,390	22,471	21,384
受取利息・配当金収入	1,134	907	857	700	777
雑収入	93,144	97,803	90,058	64,810	89,126
借入金等収入	0	0	0	335,900	0
前受金収入	1,486,143	1,543,572	1,528,913	1,502,155	1,500,710
その他の収入	130,945	155,046	189,647	220,880	136,457
資金収入調整勘定	△ 1,655,451	△ 1,664,295	△ 1,731,533	△ 1,654,968	△ 1,646,489
前年度繰越支払資金	5,257,116	4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991
収入の部合計	8,868,202	8,118,388	8,615,785	9,353,102	9,052,707

支出の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	2,335,462	2,364,671	2,473,006	2,561,147	2,653,641
教育研究経費支出	519,578	569,627	615,874	678,073	653,078
管理経費支出	295,989	273,828	300,617	326,118	312,166
借入金等利息支出	27,685	25,303	22,980	21,089	22,609
借入金等返済支出	151,660	151,660	153,520	138,600	157,280
施設関係支出	1,150,657	97,121	183,179	637,981	116,701
設備関係支出	152,881	113,657	115,983	104,100	84,073
資産運用支出	94,222	454	0	0	800
その他の支出	200,845	204,156	211,635	199,253	178,229
資金支出調整勘定	△ 192,811	△ 171,360	△ 204,292	△ 169,250	△ 161,029
次年度繰越支払資金	4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991	5,035,159
支出の部合計	8,868,202	8,118,388	8,615,785	9,353,102	9,052,707

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

「資金収支計算書」は学校法人の資金の出入りを表す財務諸表で、一般企業のキャッシュフロー計算書に類するものです。2015年度から学校法人会計基準の改正に伴い、新たに活動区分ごとの資金の流れがわかる「活動区分資金収支計算書」の作成が義務付けられました。下記は活動区分ごとの示した表となっております。

2023年度は教育研究活動により発生した資金は5億5,955万円でした。施設・設備投資には2億77万円を充当しました。

これら法人全体の事業活動により、前年度より資金が約1億7,917万円増加しました。

(単位:千円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,641,524	3,946,464	4,106,847	4,203,585	4,203,356
教育活動資金支出計	3,151,029	3,208,126	3,389,497	3,559,278	3,618,885
差引	490,495	738,338	717,350	644,307	584,471
調整勘定等	△ 87,598	60,656	△ 7,426	△ 3,708	△ 24,925
教育活動資金収支差額	402,897	798,994	709,924	640,599	559,546
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	6,791	3,659	30,784	1,567	1,906
施設整備等活動資金支出計	1,303,537	210,777	299,162	742,081	200,774
差引	△ 1,296,746	△ 207,118	△ 268,378	△ 740,514	△ 198,868
調整勘定等	38,550	△ 34,624	18,729	20,432	△ 18,888
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,258,196	△ 241,742	△ 249,649	△ 720,082	△ 217,756
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 855,299	557,252	460,275	△ 79,483	341,790
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	16,076	56,072	13,377	369,522	11,656
その他の活動資金支出計	286,851	184,201	218,465	187,988	187,217
差引	△ 270,775	△ 128,129	△ 205,088	181,534	△ 175,561
調整勘定等	992	△ 71,886	△ 1,175	10,657	12,939
その他の活動資金収支差額	△ 269,783	△ 200,015	△ 206,263	192,191	△ 162,622
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 1,125,082	357,237	254,012	112,708	179,168
前年度繰越支払資金	5,257,116	4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991
翌年度繰越支払資金	4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991	5,035,159

ウ) 財務比率の経年比較

区 分	評 価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	全国平均 2022年度
教育活動資金 収支差額比率	△	11.1%	20.2%	17.3%	15.2%	13.3%	13.4%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい -:どちらともいえない

※全国平均:2022(R4)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収支計算書は学校運営の収入と支出の内容を表したもので、一般企業の損益計算書に類するものです。

事業活動収支差額は2億1,794万円のプラスとなりました。この収支差額は前年度決算額よりも1億826万円減少しています。

《各部門別》

(単位:千円)

科目	法人	大学	高等学校	中学校	小学校	こども園	専門学校	合計	
事業活動収入	学生生徒等納付金	0	2,153,457	465,963	87,619	161,686	20,403	33,890	2,923,018
	手数料(入学検定料含む)	0	32,589	18,255	595	645	0	323	52,407
	寄付金	0	21,028	12,715	2,156	3,056	43	240	39,238
	補助金	0	325,719	347,290	64,082	92,604	244,037	4,494	1,078,226
	付随事業・雑収入等	2,335	71,026	11,336	818	551	24,109	335	110,510
	教育活動外収入(受取利息等)	0	483	160	28	47	52	7	777
	特別収入(施設設備、現物寄付金等)	0	7,326	459	558	779	206	0	9,328
	合計	2,335	2,611,628	856,178	155,856	259,368	288,850	39,289	4,213,504
事業活動支出	人件費	56,830	1,531,529	479,376	147,165	210,968	200,381	33,368	2,659,617
	教育研究経費	0	595,443	194,886	30,576	70,469	62,698	13,906	967,978
	(うち減価償却額)	0	151,310	85,079	5,046	46,746	21,760	4,915	314,856
	管理経費	46,006	132,930	83,596	19,608	48,825	7,463	4,763	343,191
	(うち減価償却額)	9,535	6,852	149	24	98	114	48	16,820
	徴収不能額等	0	0	0	525	0	0	0	525
	教育活動外支出(借入金利息等)	0	5,114	17,495	0	0	0	0	22,609
	特別支出(資産処分差額等)	0	248	1,390	0	0	4	0	1,642
合計	102,836	2,265,264	776,743	197,874	330,262	270,546	52,037	3,995,562	
経常収支差額	△ 100,501	339,286	80,366	△ 42,576	△ 71,673	18,102	△ 12,748	210,256	
事業活動収支差額	△ 100,501	346,364	79,435	△ 42,018	△ 70,894	18,304	△ 12,748	217,942	

◎経年比較

(単位:千円)

科目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,613,134	2,713,748	2,855,963	2,901,118	2,923,018
	手数料	60,231	60,149	58,929	59,359	52,407
	寄付金	79,001	85,488	117,546	75,918	39,238
	経常費等補助金	778,693	967,620	959,961	1,079,958	1,078,226
	付随事業収入	17,490	21,792	24,390	22,471	21,384
	雑収入	93,144	100,187	90,058	64,810	89,126
	教育活動収入計	3,641,693	3,948,984	4,106,847	4,203,634	4,203,399
	事業活動支出の部					
	人件費	2,338,082	2,372,133	2,483,157	2,544,088	2,659,617
	教育研究経費	750,261	840,864	889,001	965,449	967,978
	管理経費	324,037	309,059	335,568	353,635	343,191
	徴収不能額等	170	0	9	0	525
	教育活動支出計	3,412,550	3,522,056	3,707,735	3,863,172	3,971,311
	教育活動収支差額	229,143	426,928	399,112	340,462	232,088

(単位:千円)

科目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動外收支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	1,134	907	857	700	777
	その他の教育活動外収入	0	1,000	1,000	0	0
	教育活動外収入 計	1,134	1,907	1,857	700	777
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	27,685	25,303	22,980	21,089	22,609
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出 計	27,685	25,303	22,980	21,089	22,609	
教育活動外収支差額	△ 26,551	△ 23,396	△ 21,123	△ 20,389	△ 21,832	
経常収支差額	202,592	403,532	377,989	320,073	210,256	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	20	0	0	0	693
	その他の特別収入	13,753	13,462	42,483	12,324	8,635
	特別収入 計	13,773	13,462	42,483	12,324	9,328
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2,017	1,186	681	132	1,642
	その他の特別支出	21,547	21,547	0	6,060	0
特別支出 計	23,564	22,733	681	6,192	1,642	
特別収支差額	△ 9,791	△ 9,271	41,802	6,132	7,686	
基本金組入前当年度収支差額	192,801	394,260	419,791	326,205	217,942	
基本金組入額合計	△ 1,391,124	△ 406,093	△ 404,109	△ 553,954	△ 366,271	
当年度収支差額	△ 1,198,323	△ 11,833	15,682	△ 227,749	△ 148,329	
前年度繰越収支差額	△ 3,888,970	△ 5,087,293	△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,877	
基本金取崩額	0	955	7,361	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 5,087,293	△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,877	△ 5,451,206	

(参考)

事業活動収入 計	3,656,600	3,964,353	4,151,187	4,216,658	4,213,504
事業活動支出 計	3,463,799	3,570,092	3,731,396	3,890,453	3,995,562

イ) 財務比率の経年比較

区分	評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	全国平均 2022年度		
事業活動収支計算書関係比率	1 人件費比率	人件費 経常収入	▼	64.2%	60.0%	60.4%	60.5%	63.3%	50.9%
	2 人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	▼	89.5%	87.4%	86.9%	87.7%	91.0%	69.3%
	3 教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	△	20.6%	21.3%	21.6%	23.0%	23.0%	36.1%
	4 管理経費比率	管理経費 経常収入	▼	8.9%	7.8%	8.2%	8.4%	8.2%	8.5%
	5 借入金等利息比率	借入金等利息 経常収入	▼	0.8%	0.6%	0.6%	0.5%	0.5%	0.1%
	6 事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度 収支差額 事業活動収入	△	5.3%	9.9%	10.1%	7.7%	5.2%	4.6%
	7 基本金組入後収支比率	事業活動支出 事業活動収入-基本金組入額	▼	152.9%	100.3%	99.6%	106.2%	103.9%	104.7%
	8 学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	-	71.7%	68.7%	69.5%	69.0%	69.5%	73.5%

区 分			評 価	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	全国平均 2022年度
事業活動 収支 計算書 関係 比率	9	寄付金比率	△	2.4%	2.4%	3.1%	2.1%	1.1%	1.9%
	10	補助金比率	△	21.5%	24.5%	23.8%	25.6%	25.6%	14.4%
	11	基本金組入率	△	38.0%	10.2%	9.7%	13.1%	8.7%	8.9%
	12	減価償却額比率	-	7.2%	8.1%	7.8%	7.8%	8.3%	11.5%
	13	経常収支差額 比率	△	5.6%	10.2%	9.2%	7.6%	5.0%	4.2%
	14	教育活動収支 差額比率	△	6.3%	10.8%	9.7%	8.1%	5.5%	2.3%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい -:どちらともいえない

※全国平均:2022(R4)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

(2) その他

① 有価証券の状況

所有しておりません

② 借入金の状況

(単位:円)

借 入 先	期末残高	摘 要
		使 途
日本私立学校振興・共済事業団	828,620,000	大学5号館建築、運動場用地 労作用地、セミナーハウス棟建築 新ソフトボール場整備
遠州信用金庫中川支店	203,600,000	高校校舎用地購入、高校校舎建築
りそな銀行浜松支店	71,800,000	高校校舎建築
浜松磐田信用金庫三方原支店	235,910,000	高校校舎用地購入、運動場整備 校舎建築、大学5号館建築
静岡銀行浜松営業部	198,100,000	高校校舎建築、大学3号館建築
合 計	1,538,030,000	

③ 学校債の状況

発行しておりません

④ 寄付金の状況

(単位:円)

区分	氏名	金額	用途・品目等
一般寄付金	個人(1名)	36,098	
	聖隷クリスファー中・高等学校PTA様	2,895,318	
	聖隷クリスファー中・高等学校学年会計	10,091,899	
	聖隷クリスファー小学校学年会計	3,056,367	
	合計	16,079,682	
特別寄付金	個人(159名)	2,720,643	図書購入資金、部活動支援 他
	聖隷クリスファー大学同窓会様	100,000	図書購入資金
	聖隷クリスファー大学後援会様	20,835,066	スクールバス補助、学生食堂光熱水費 他
	聖隷クリスファー中・高等学校PTA様	559,424	学生用コピー用紙補助、カフェテリア経費
	聖隷クリスファー高等学校2020年度卒業生様	112,600	卒業記念品購入資金
	合計	24,327,733	
現物寄付金	個人(25名)	7,216,575	科研費補助金購入備品 他
	クリスファーこども園2021年度卒園児様	206,000	手押しポンプ
	クリスファーこども園2023年度卒園児様	42,992	ポケット図鑑、ホットプレート
	合計	7,465,567	
寄付金合計		47,872,982	

④ 補助金の状況

(単位:円)

補助金名称	交付団体	施設	決定金額
私立大学等経常費補助金	日本私立学校振興・共済事業団	大学	247,379,000
大学等における修学の支援に関する法律による令和5事業年度授業料等減免費交付金	日本私立学校振興・共済事業団	大学	77,986,800
令和5年度学校保健特別対策事業費補助金 (感染症流行下における学校教育活動体制整備事業)	文部科学省	高校	675,000
		中学	93,000
理科教育設備整備費等補助金	文部科学省	中学	168,000
私立学校経常費補助金	静岡県	高校	281,956,000
		中学	62,840,000
		小学校	89,056,000
静岡県私立高等学校授業料減免事業費補助金	静岡県	高校	60,218,400
私立学校物価高騰対策支援金	静岡県	高校	2,205,000
		中学	367,500
		小学校	587,500
		専門学校	220,000
高等学校等就学支援金事務費補助金	静岡県	高校	685,000
私立学校災害用備蓄用品整備事業費補助金	静岡県	高校	64,000
		中学	4,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金 (学習指導員配置等事業)	静岡県	小学校	900,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金 (スクールカウンセラー配置等事業)	静岡県	小学校	600,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金 (ICT教育環境整備推進事業)	静岡県	小学校	574,000
私立専修学校運営費補助金	静岡県	専門学校	2,420,000
令和5年度私立専門学校就学支援事業費補助金	静岡県	専門学校	1,831,700
児童福祉施設等物価高騰対策支援金	静岡県	こども園	400,000
結核健康診断費補助金	浜松市	大・高・専門	692,120
私立学校教育振興事業費補助金	浜松市	小・中・高	2,666,000
施設型給付費	浜松市	こども園	209,309,204
私立保育所等事業費補助金	浜松市	こども園	12,897,400
私立保育所等入所児童処遇向上費補助金	浜松市	こども園	10,939,000
浜松市幼稚園型一時預かり事業費補助金	浜松市	こども園	3,231,900
浜松市保育所保育補助雇上強化事業	浜松市	こども園	3,079,000
浜松市在園児下の子の優先利用支援事業費補助金	浜松市	こども園	1,459,430
保育施設等物価高騰対策助成事業 (光熱費・給食費)	浜松市	こども園	1,151,400
保育施設等物価高騰対策助成事業 (給食費の物価高騰対策事業)	浜松市	こども園	364,000
浜松市私立保育所等子どもの安心・安全対策事業費補助金	浜松市	こども園	350,000
子ども子育て支援教育・保育給付費	森町	こども園	855,858
合計			1,078,226,212

⑥ 収益事業の状況

本法人は、私立学校法に基づく収益事業を2019年度から開始いたしました。当該収益事業は、学校法人会計から区分し、一般に公正妥当と認められる企業会計の原則により経費処理することとされております。本法人では、2019年12月に、中・高等学校に隣接するマンションを購入し、貸家業として、家賃収入を得ています。

収益事業会計 貸借対照表

令和6年3月31日

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	607,273	流動負債	5,619,001
現金預金	561,559	未払金	115,501
前払費用	45,714	短期借入金	4,992,000
		前受金	511,500
固定資産	133,228,833		
有形固定資産		固定負債	23,792,000
建物	88,265,730	長期借入金	23,792,000
建物減価償却引当金	△ 11,857,027		
構築物	980,100	負債の部合計	29,411,001
構築物減価償却引当金	△ 253,354		
備品	796,202	純資産の部	
備品減価償却引当金	△ 95,171	元入金	95,022,178
土地	55,392,353	利益剰余金	
		その他利益剰余金	9,402,927
		(当期純損失)	△ 1,319,037
		繰越利益剰余金	9,402,927
		純資産合計	104,425,105
資産の部合計	133,836,106	負債・純資産の部合計	133,836,106

収益事業会計 損益計算書

令和5年 4月 1日から

令和6年 3月31日まで (単位：円)

科目	金額
1. 営業損益	
(1) 営業収益	
家賃収入	6,233,000
計	6,233,000
(2) 営業費用	
報酬委託手数料	683,122
水道光熱費	1,008,798
修繕費	1,396,340
建物保全費	262,173
保険料	138,240
公租公課	916,500
減価償却費	2,896,094
雑費	33,935
計	7,335,202
営業損失	△ 1,102,202
2. 営業外損益	
(1) 営業外収入	
受取利息	29
雑収入	3,000
計	3,029
(2) 営業外費用	
支払利息	219,864
計	219,864
経常損失	△ 1,319,037
学校会計繰入前損失	△ 1,319,037
学校会計繰入支出	0
税引き前当期純損失	△ 1,319,037
法人税、住民税及び事業税	
当期純損失	△ 1,319,037
前期繰越利益	10,721,964
繰越利益剰余金	9,402,927

注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

・・・定額法を採用している。

(2) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

・・・消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式を採用している。

2. 減価償却額の累計額の合計額 12,205,552円

⑦ 関連当事者等との取引の状況

関連当事者等との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属性	役員、法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業内容又は職業	議決権の所有割合	関係の内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高	
						役員の兼任等	事業上の関係					
理事長	長谷川 了	—	—	—	—	—	—	当法人の借入に対する債務保証 (注1)	456,220,000	—	—	
理事	青木 善治	—	—	社会福祉法人 聖隷福祉 事業団 理事長	—	—	—	設備の賃借	実習控室借用料(注2)	3,960,000	教育研究経費	—
								健康診断委託	学生生徒検診委託料(注2)	3,946,888	教育研究経費	—
								健康診断委託	教職員検診委託料(注2)	3,311,847	管理経費	—
								実習受入	実習受入謝礼(注2)	4,257,100	教育研究経費	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

※取引金額は消費税込み

(注1)当法人は、金融機関等からの借入に対して、理事長 長谷川了より債務保証を受けており、取引金額は令和6年3月末残高である。なお、保証料の支払いは行っていない。

(注2)理事 青木善治が、第三者(社会福祉法人 聖隷福祉事業団)の代表者として行っている取引である。取引条件は双方協議の上、契約等に基づき決定している。

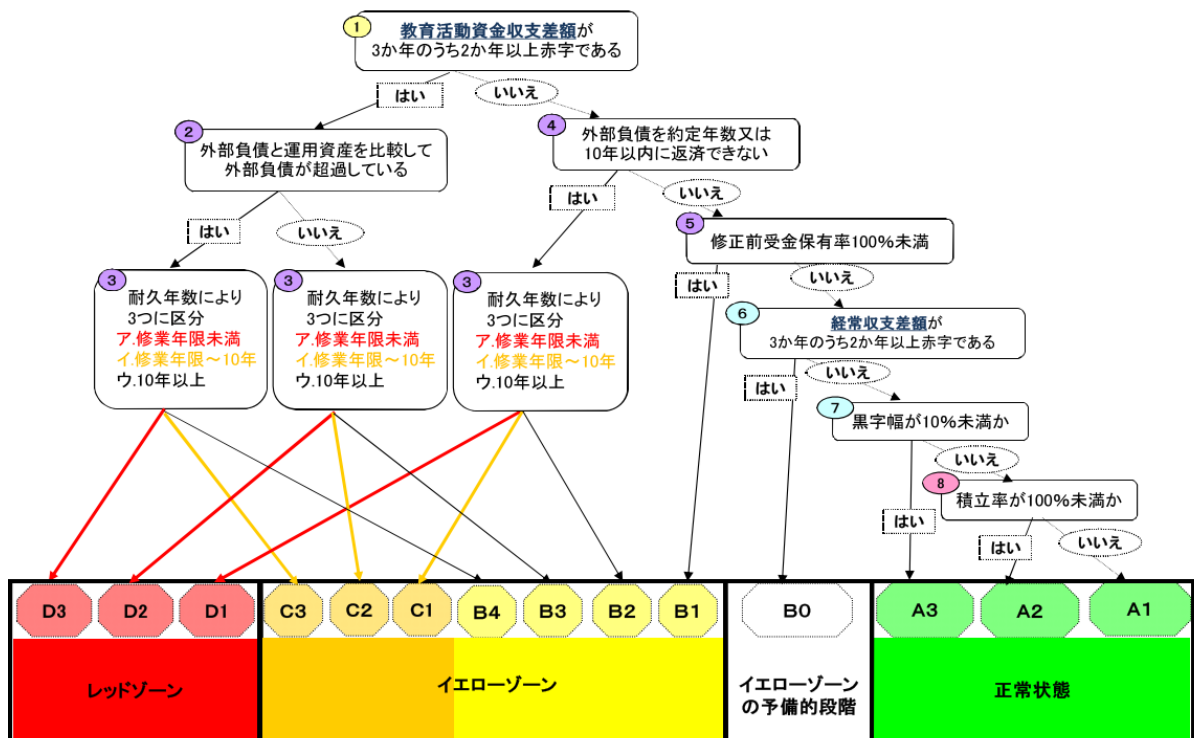
⑧ 学校法人間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

① 経営判断指標に基づく学校法人経営状態の区分から

日本私立学校振興・共済事業団では、私立学校への適切な指導を行うために、学校法人の経営状態を定量的な指標により 14 通りに分類しています。この指標に基づき自己診断したところ、本学園は経常収支差額比率 5.0%で、A3 ランクに分類され、財務状況は正常な状態にあります。



② 2023 年度決算概要について

学生・生徒・児童・園児数は、小学校学年進行に伴い、学園全体で 3,210 名となり、前年度から 31 名増加しています。定員充足率は学園全体で 98.7%（前年度同様）となりました。

事業活動収入は、4,213,504 千円（対前年度 3,154 千円減）、事業活動支出は 3,995,562 千円（対前年度 105,109 千円増）となり、収支差額は 217,942 千円（対前年度 108,263 千円減）となりました。収入については、生徒、児童数増に伴い納付金が 21,900 千円増、補助金は 1,732 千円減（うち授業料減免補助金は 30,186 千円減）でした。一方、支出で大きな割合を占める人件費は、小学校、グローバルスクールコース（中学校）の学年進行に伴う教員増、また、人事院勧告に伴う増額の為、115,529 千円の増加となりました。納付金は増えたものの、その他の収入減と支出増の影響により、人件費比率は法人全体で 63.3%（同 2.8 ポイント増）となりました。

施設・設備の整備については、グローバルスクール用校舎建築費用として、2023 年度は設計管理料、行政への申請費用 31,465 千円を執行しました。その他として、大学、中高エアコン取替 44,120 千円、中高ホール観覧席改修 31,299 千円等 主に既存施設の取替修理を行いました。

また、学生の満足度調査への対応として、PC を利用しながら授業が受けやすくなるよう少し幅広い机に変更するなど、教育環境の改善を図りました。

こうした状況のもとで、2023 年度の事業活動収支差額比率は、法人全体で 5.2%（対前年度比 2.5 ポイント減）となりました。

法人全体における教育活動のキャッシュフローは 559,546 千円（2022 年度 640,599 千円）のプラスになります。施設整備等活動のキャッシュフローは△217,756 千円で、これは前述の施設・設備の整備によるものです。その他活動のキャッシュフローは△162,621 千円となります。次年度繰越支払資金は 179,168 千円増となり、繰越支払資金は 5,035,159 千円となりました。

今後も教育研究保育環境の充実・整備を図りつつ、中長期経営計画実現に向け財源を継続して確保する必要があります。事業の継続ならびに新規構想の推進には財政基盤の強化が必要であり、自主財源の確保は、入学入園者見込数を確実に確保していくこと、支出については、その 60%以上を占める人件費政策を行うことが必須となります。

次年度以降は、グローバルスクール校舎の建築費用が発生していきます。校舎建築、備品購入で約 20 億円ほど想定しており、収支は一時的マイナスとなる見通しです。中長期財務計画をひとつの指標とし、予算、補正予算編成、予算執行について、各部門の状況を把握しながら、丁寧に行っていきます。

③各学校別財務比率から

<学校法人全体の主要財務指標の内容>

ここでは主に下記の指標を用いて2023年度決算における経営状況および改善傾向を把握することができます。

①収容定員充足率 = 学生現員 ÷ 収容定員

定員に対する学生数の割合を示したものです。100%であることが理想です。

②経常収支差額比率 = 経常収支差額 ÷ 経常収入

③流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債

短期的な資金繰りの余裕度合を表したもので、150~200%が理想的です。

④運用資産余裕比率 = (運用資産*1 - 外部負債*2) ÷ 経常支出 …法人全体のみ

*1 運用資産=現預金+特定預金 *2 外部負債=総負債-退職給与引当金-前受金

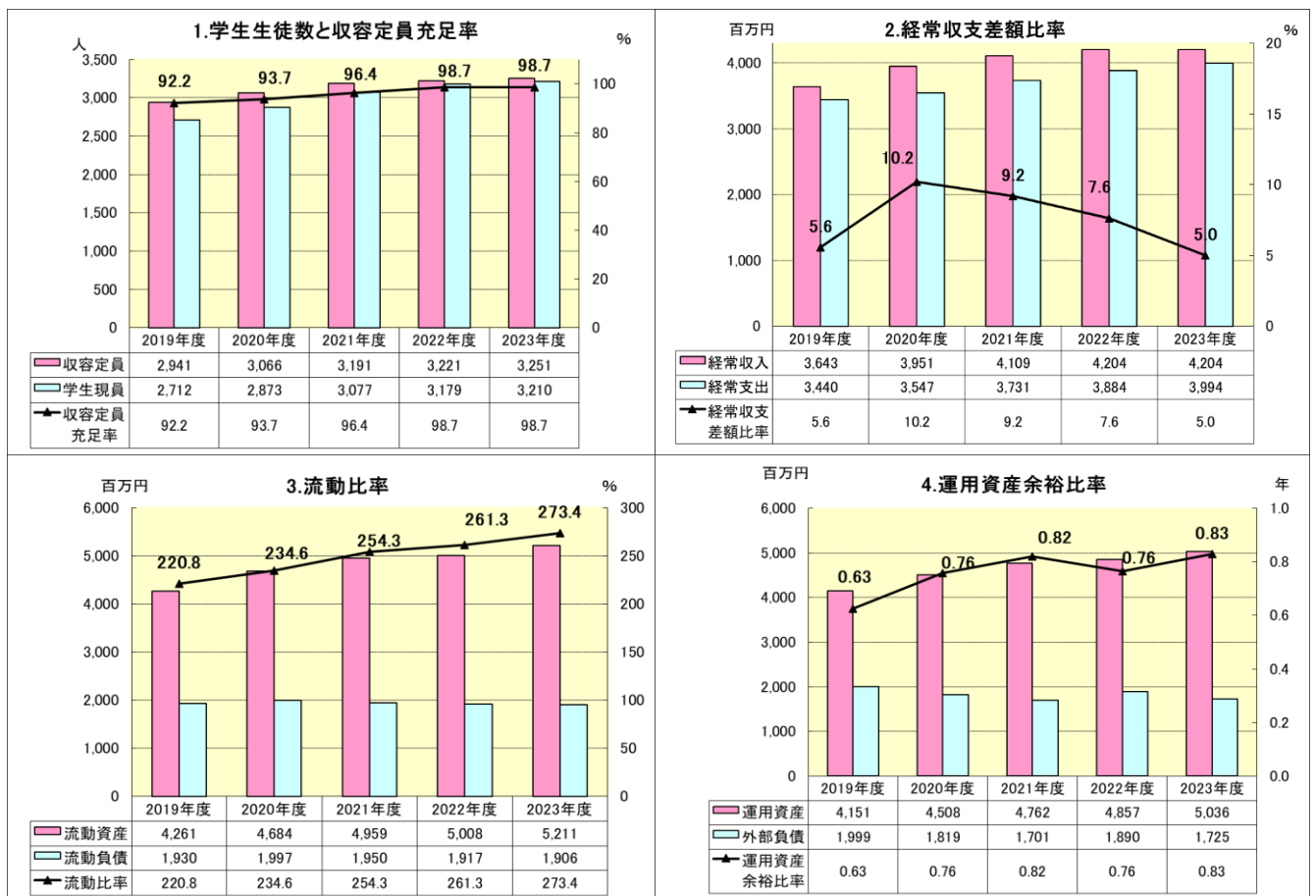
実質的な運用資産を年間の支出に対してどれだけ保有しているかを示すものです。

法人全体

2023年度は小学校開設4年目を迎え、法人全体の収容定員充足率98.7%となりました。経常収支差額比率5.0%、流動比率は273.4%、運用資産余裕比率は0.83年となっております。

2023年度は、2019年度に小学校開設準備費用として自己資金約11億8千万円執行した事により、財務比率は一旦、低下しましたが、2020年度以降は改善傾向であり、小学校の完成年度に向けて、徐々に改善していくことと思われまます。

2023年度決算(法人全体)



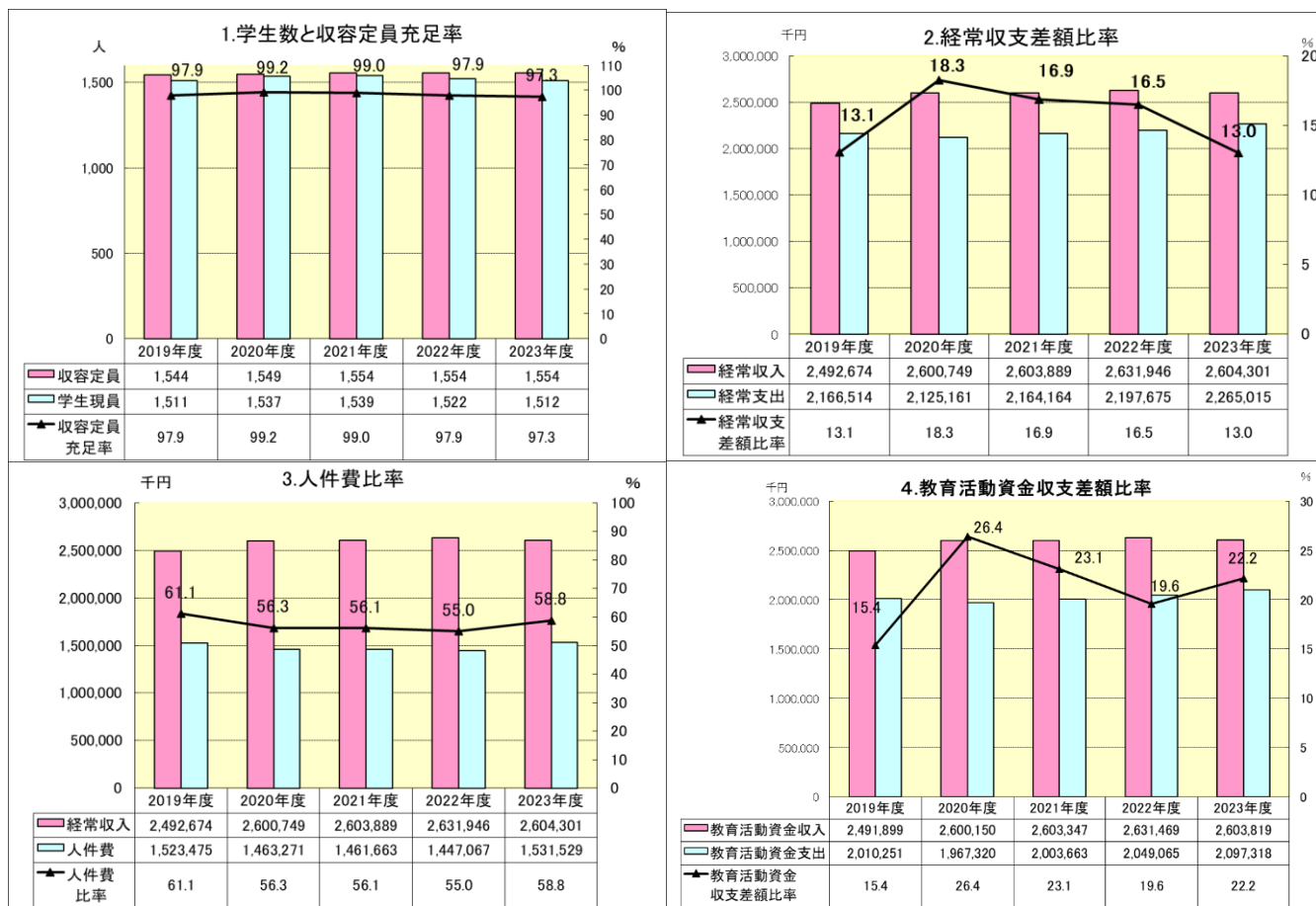
◆ 各学校の主要財務指標の内容

学校別の財務内容については下記指標を用いて算出しました。

- ① 収容定員充足率 = 学生(生徒・園児)現員 ÷ 収容定員
- ② 経常収支差額比率 = 経常収支差額 ÷ 経常収入
- ③ 人件費比率 = 人件費 ÷ 経常収入
 経常収入に対する教職員の人件費の割合を表したものです。
- ④ 教育活動資金収支差額比率 = 教育活動資金収支差額 ÷ 教育活動資金収入計
 教育活動でキャッシュフローが生み出されているかを表したものです

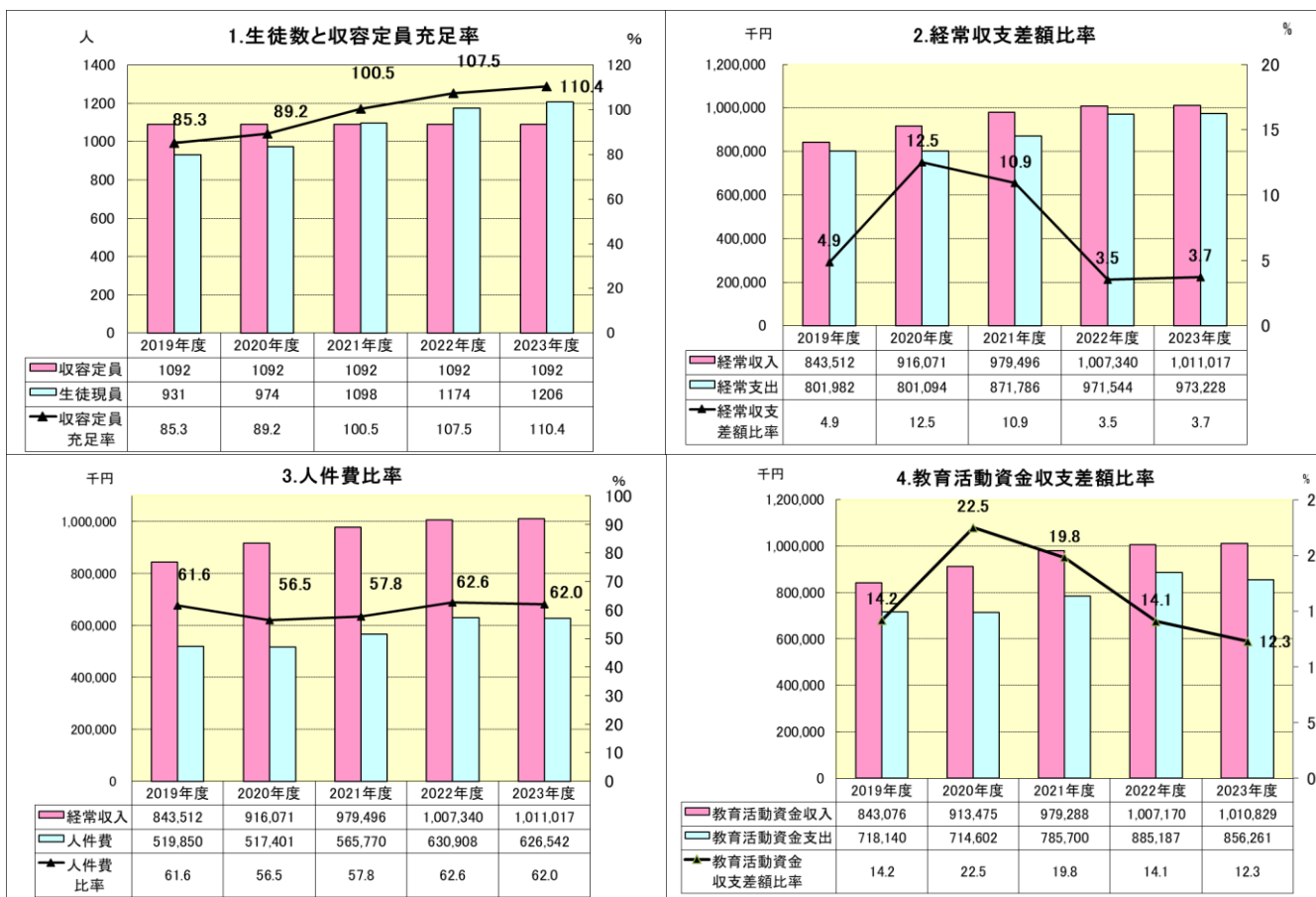
聖隷クリストファー大学

2023年度決算(大学全体)



聖隷クリストファー中・高等学校

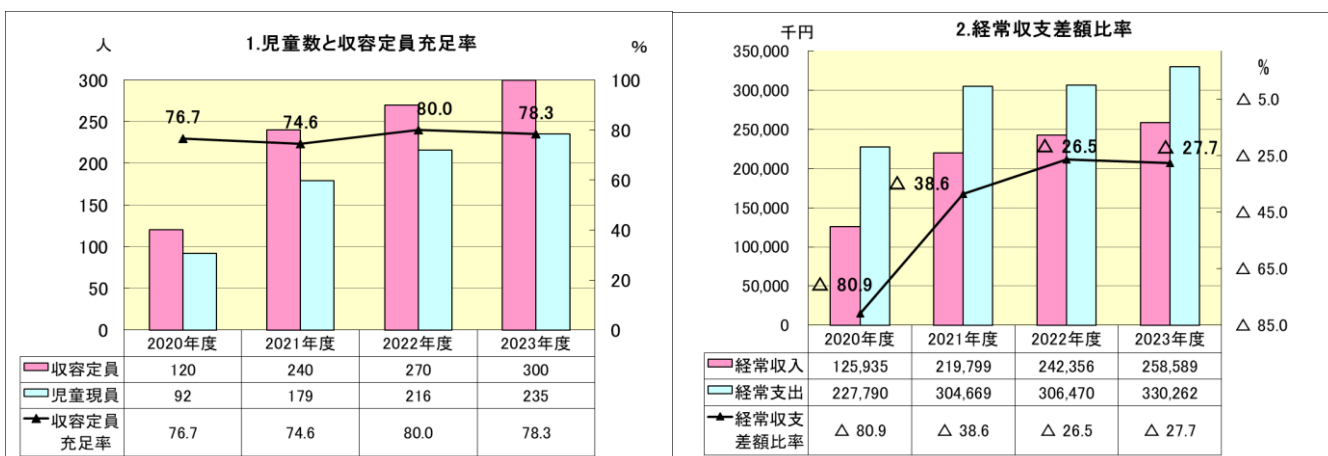
2023年度決算（中・高等学校）

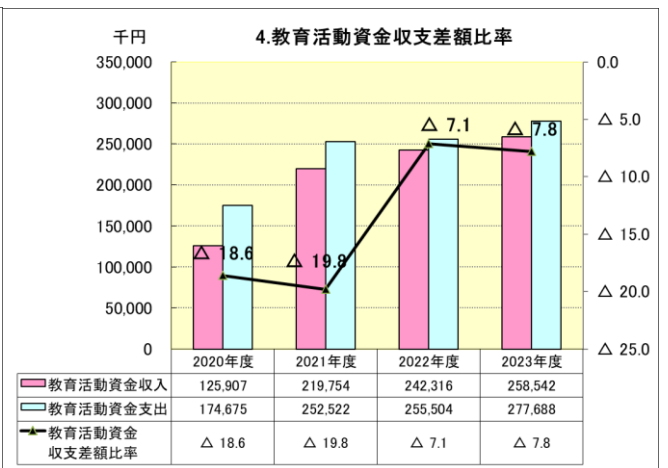
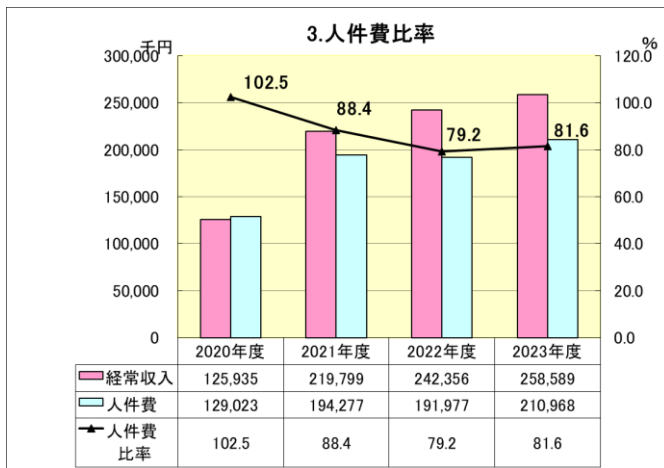


聖隷クリストファー小学校

2023年度決算（小学校）

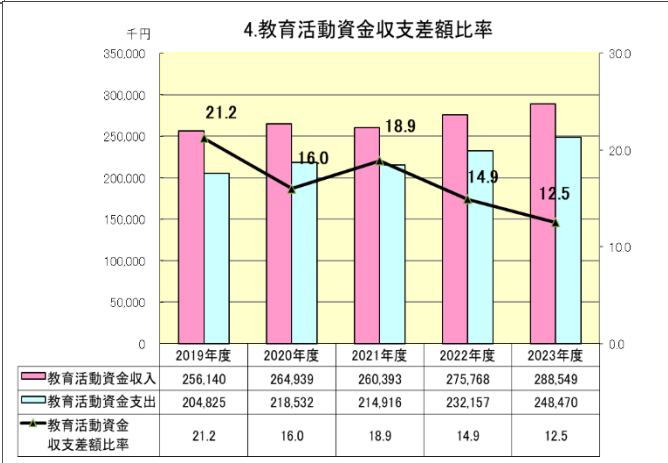
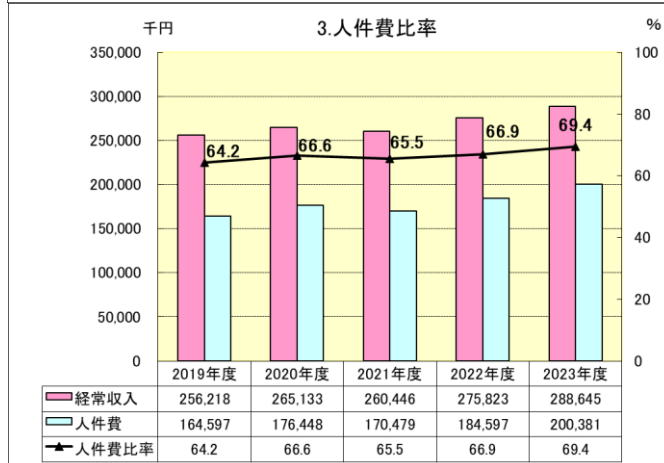
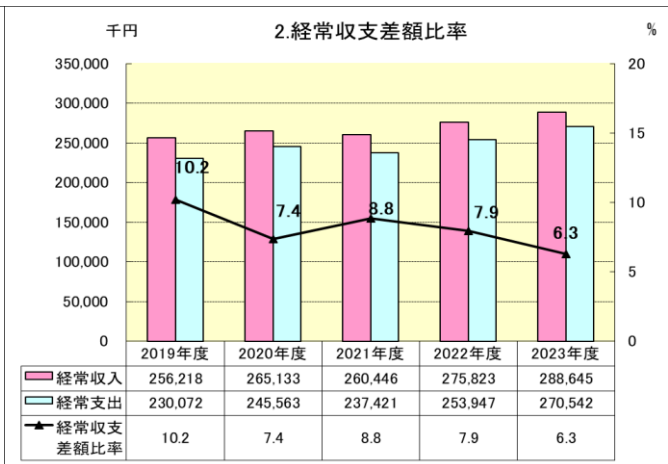
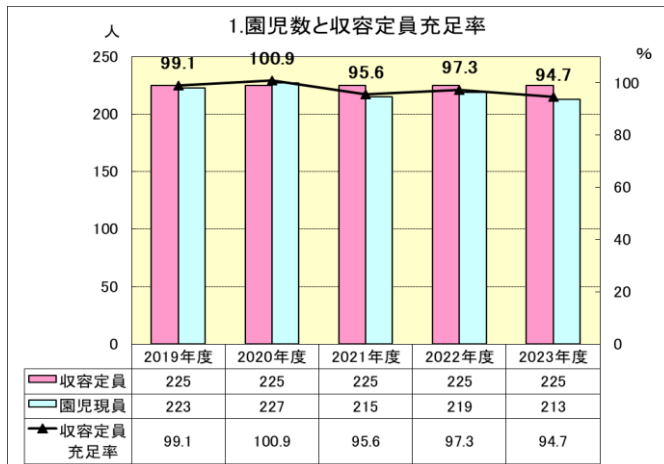
聖隷クリストファー小学校は、2020年度4月開校のため過去4年間分となります。





聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

2023年度決算（こども園）



聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

2023年度決算（専門学校）

